SONY

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。このオ取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

ノートブックコンピューター

PCG-Z505N Series


S400





安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6～12ページの注意事項をよくお読みください。
製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



→

❶ **電源を切る**

❷ **電源コードや接続ケーブルを抜き、バッテリを取りはずす**

❸ **VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する**

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。
（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）
* 充電されたバッテリ使用時には、無停電電源装置などは不要です。

目次

操作編

基本的な使いかた

VAIOを使いこなす

拡張編

周辺機器を接続する

本体を拡張する

困ったときは

その他

以下の項目については、「PCG-Z505N Series」のオンラインマニュアルをご覧ください。

- 本機の使用環境を設定する（Sony Notebook Setup）
- バッテリの消費電力を節約する（PowerPanel）
- バッテリの残量を確認する（BatteryScope）
- 画面表示の設定を変更する
- タッチパッドを便利に使う

オンラインマニュアルを見るには、「オンラインマニュアルの使いかた」（14ページ）をご覧ください。







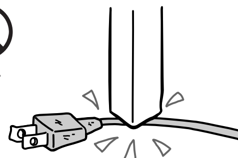
下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 本機と机や壁などの間にはさみこんだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。





万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となります。





内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。





内部をむやみに開けない

- 本体および付属の機器（ケーブル含む）は、むやみに開けたり改造したりすると火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- メモリを増設するときは、この取扱説明書の「メモリを増設する」（121ページ）に従って注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となります。





指定のACアダプタ以外は使用しない

火災や感電の原因となります。



雷が鳴りだしたら、テレホンコードや電源プラグに触れない

感電の原因となります。



ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本体の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。



本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。
海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となります。



モデムは一般電話回線以外に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障・発熱・火災の原因となります。
特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。





下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



キーボードを使いすぎない

キーボードやタッチパッドなどを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやタッチパッドを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。
呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。





下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

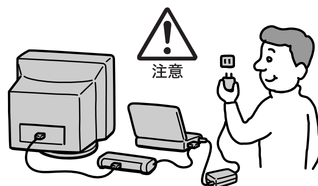
ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。



接続するときは電源を切る

ACアダプタや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



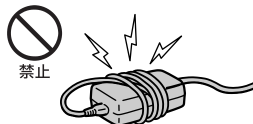
指定された電源コードや接続ケーブルを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



電源コードや接続ケーブルをACアダプタに巻き付けない

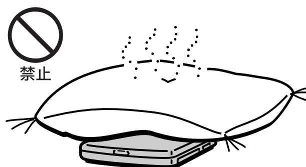
断線や故障の原因となることがあります。



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物（じゅうたんや毛布など）の上に放置しない。
- 布などでくるまない。



通電中の本体やACアダプタに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



次のページにつづく



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

本体やACアダプタを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

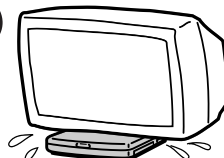




本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。





お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

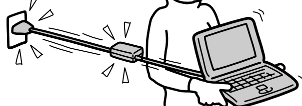




移動させるときは、電源コードや接続ケーブルを抜く

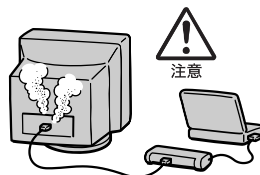
接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
また、本機を落とさないようにご注意ください。





コネクタはきちんと接続する

- コネクタの内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。



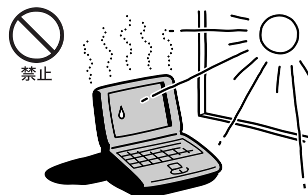
長時間使用しないときは電源プラグを抜く

長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。



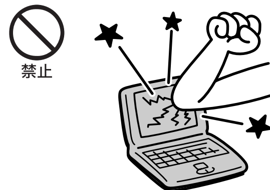
直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



ディスプレイパネルの裏側を強く押さない

液晶画面が割れて、故障やけがの原因となることがあります。



本体に強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリパックに衝撃を与えない。
  落とすなどして強いショックを与えたり、重いものを載せたり、圧力をかけないでください。故障の原因となります。
- バッテリパックから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師に相談してください。
- 本体に付属または指定された別売りのバッテリパック以外は使用しないでください。

⚠警告

バッテリパックを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

本体やACアダプタが普段よりも異常に熱くなったときは

本機の電源を切り、ACアダプタの電源コードを抜き、バッテリパックを取りはずしてください。次に、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または購入された販売店に修理をご依頼ください。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の章で構成されています。
また、本機に付属されいているソフトウェアについては、別冊の
「ご確認ください」をご覧ください。

❑ 操作編

本機を初めてお使いになるときは、「基本的な使いかた」（22ページ）からお読みください。特にパソコンを初めてお使いになる方は、「タッチパッドを使う」（26ページ）や「キーボードを使う」（37ページ）、「文字を入力する」（44ページ）を読んで、パソコンの基本的な使いかたをマスターすることをおすすめします。一歩進んだ使いかたは、「VAIOを使いこなす」（66ページ）をご覧ください。

❑ 拡張編

プリンタなどの周辺機器のつなぎかたや、PCカードの使いかたなどについて説明しています。

❑ 困ったときは

本機がうまく動作しないときのトラブルの解決方法について説明しています。

❑ その他

本機をご使用になる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

本書内のイラストや画面について

本書は、PCG-Z505N Seriesに共通です。本機をお使いになる前に、本機の底面に書かれている機種名をご確認ください。特に指示のない限り、本文中のイラストや画面はPCG-Z505NRを使用しています。

オンラインマニュアルの使いかた

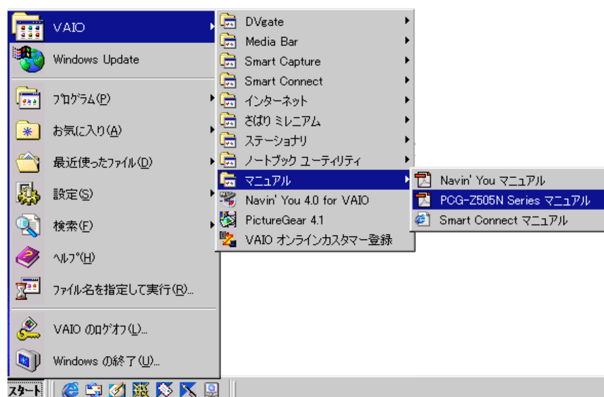
この取扱説明書の内容は、オンラインマニュアル*として本機のディスプレイ画面上でお読みいただけます。取扱説明書を持ち歩かなくても、外出先で本書の内容を参照できます。
また、本機に付属のソフトウェアによっては、ヘルプをディスプレイ画面上でお読みいただけます。

* PDF（Portable Document Format）のファイルで付属しています。また、本機のセットアップのしかたについては、オンラインマニュアルのみに記載されています。

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、［PCG-Z505N Series マニュアル］をクリックする。



本機に付属の「Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し、オンラインマニュアルが表示されます。
「Acrobat Reader」を初めて起動すると、「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されますので、画面の指示に従って、操作をしてください。

オンラインマニュアルの見かた

サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときは、[アイコン]をクリックし、それぞれのタブをクリックします。詳しくは、「Acrobat Reader」のヘルプメニューをクリックして、ヘルプをご覧ください。

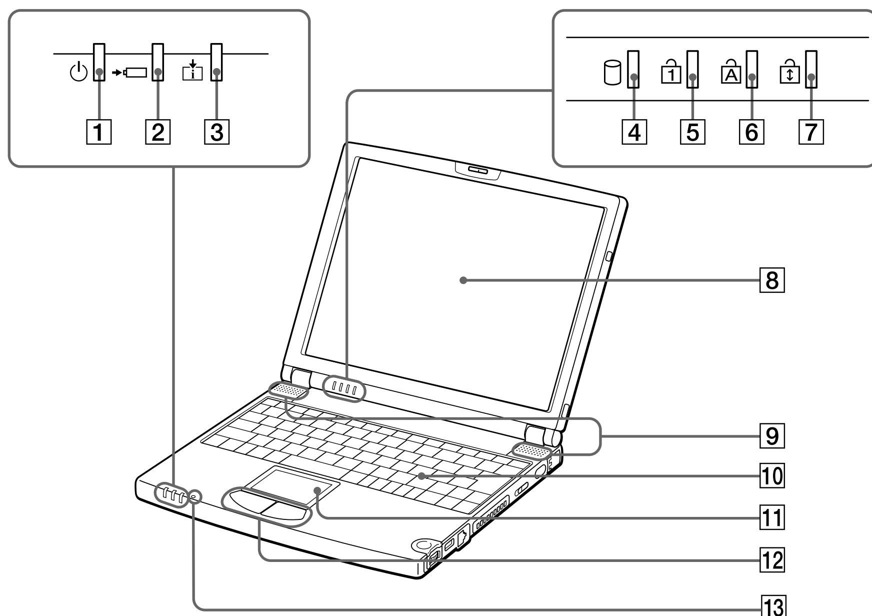


各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソニー製のソフトウェアにはヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

各部のなまえ

詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。



1 ⏻（パワー）ランプ（23ページ）

2 （バッテリ）ランプ（63ページ）

3 （インフォメーション）ランプ（76ページ）

4 （ハードディスク）ランプ

5 （Num Lock）ランプ（37、137ページ）

6 （Caps Lock）ランプ（137ページ）

7 （Scroll Lock）ランプ

8 液晶ディスプレイ（137、163ページ）

9 内蔵ステレオスピーカー（42ページ）

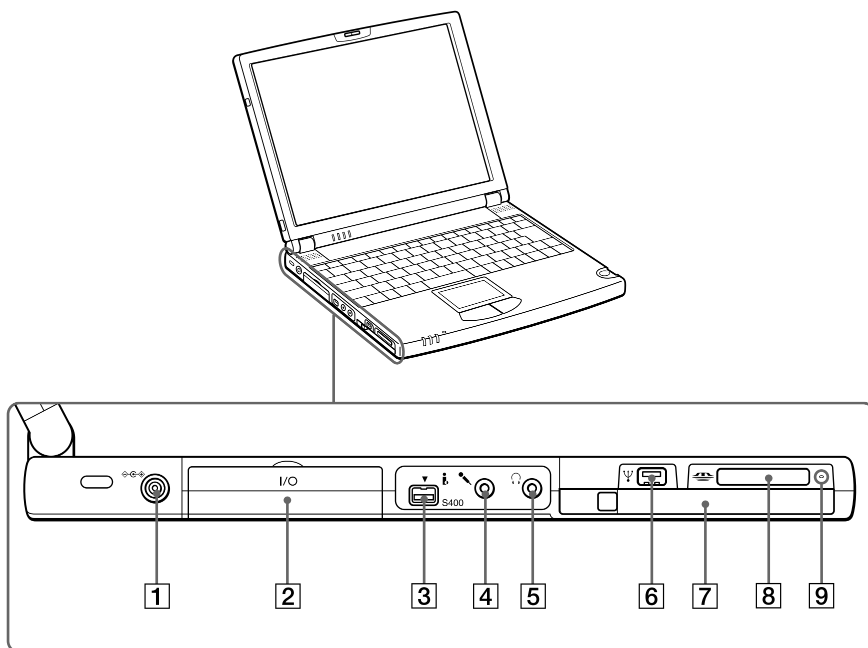
10 キーボード（41ページ）

11 タッチパッド（26ページ）

12 左／右ボタン（26ページ）

13 内蔵マイク（89ページ）

本機左側面



1 (DC IN) コネクタ
（22ページ）

2 |/○（i.LINKポートリプリケーターまたはディスプレイアダプタ）コネクタ
（114、116ページ）

3 S400 i.（i.LINK）コネクタ
（97、108ページ）

4 （MIC IN）コネクタ

5 （ヘッドホン）コネクタ
（115ページ）

6 Ψ（専用ミニUSB）コネクタ
（113ページ）

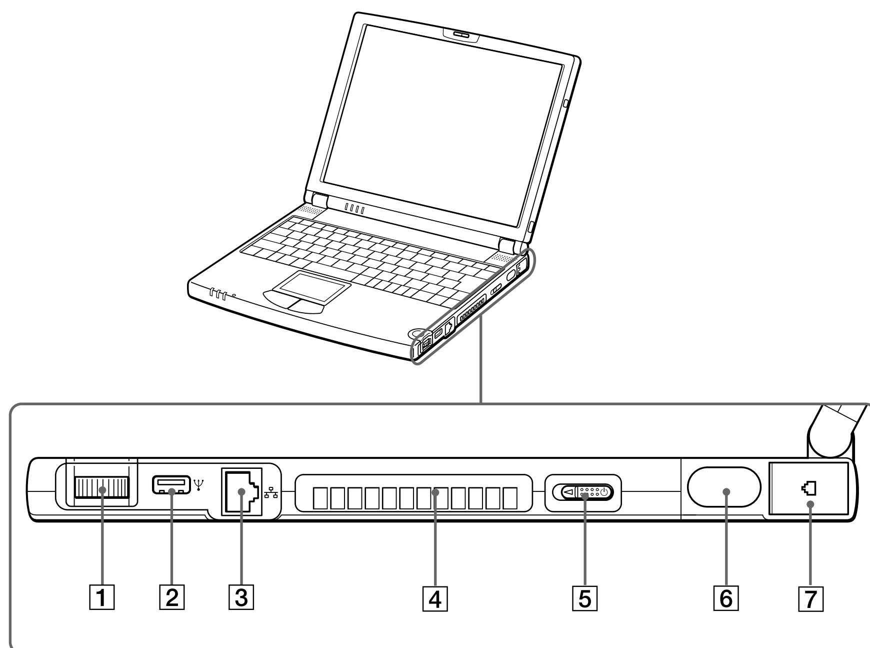
7 PCカードスロット
（61、127ページ）

8 （メモリースティック）スロット（58ページ）

9 （メモリースティック）ランプ（59ページ）

次のページにつづく

本機右側面



1 **ジョグダイヤル**
（28、69、72、79、81ページ）

2 Ψ（USB）**コネクタ**
（52、113ページ）

3 品（ネットワーク）**コネクタ**
（95ページ）

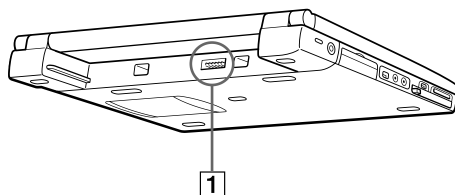
4 **通風孔**

5 **パワースイッチ**
（23ページ）

6 **赤外線通信ポート**
（97ページ）

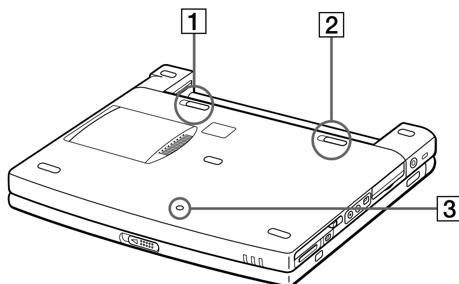
7 **モジュラジャック**
（105ページ）

本機後面



1 バッテリコネクタ
(64ページ)

本機底面



1 取りはずしレバー(65ページ)

2 ロックレバー(64ページ)

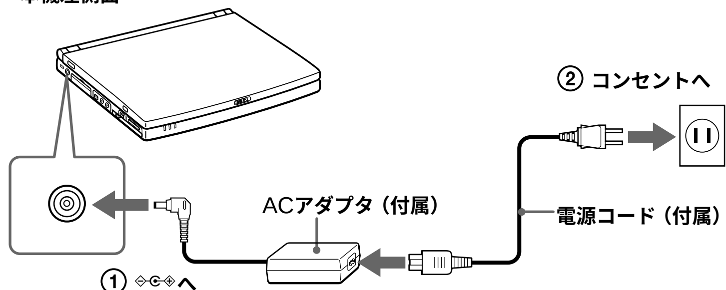
3 リセットスイッチ(134ページ)

操作編

電源を入れる

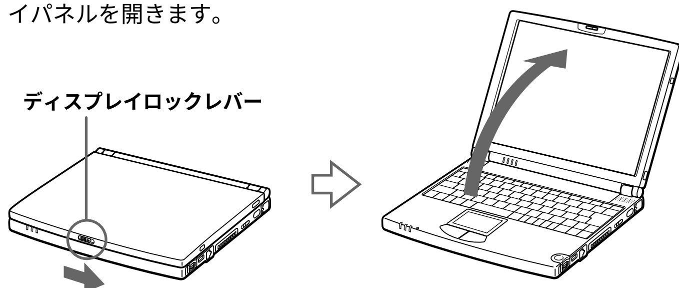
ここではAC電源につないだときの電源の入れかたについて説明します。
バッテリを使うときは、「バッテリで使う」（63ページ）をご覧ください。

1 **AC電源をつなぐ。**



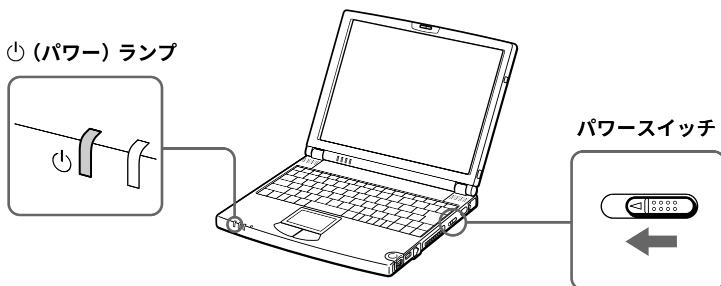
2 **ディスプレイパネルを開く。**

ディスプレイロックレバーを矢印の方向にずらしながら、ディスプレイパネルを開きます。



3 パワースイッチを◁の方向にずらし、⏻（パワー）ランプが点灯（グリーン）したら離す。

本機の電源が入り、しばらくしてWindows 98が起動します。
初めて電源を入れたときは、Windows 98セットアップ画面が表示されます。Windows 98セットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



ご注意

4秒以上パワースイッチを◁の方向にずらしたままにすると、電源は切れてしまいます。

電源を切る

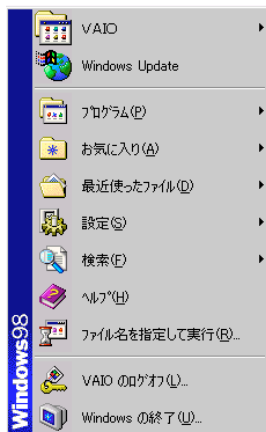
本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順通りに電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などのファイルが使えなくなることがあります。

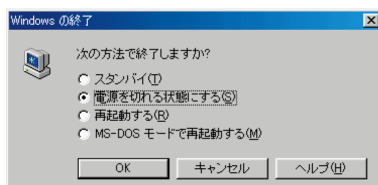
1 ［スタート］ボタンをクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。



2 メニューの［Windowsの終了］をクリックする。

「Windowsの終了」が表示されます。



3 「電源を切れる状態にする」を選び、つぎに［OK］をクリックする。

「Windowsを終了しています」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れ、⏻（パワー）ランプ（グリーン）が消灯します。

「スタート」メニューから［Windowsの終了］を選んでも電源が切れないときは

以下の作業を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- PCカードをお使いの場合は、「PCカードを取り出すには」（129ページ）の手順に従ってPCカードを取り出す。
- USB機器を接続しているときは取りはずす。
- 赤外線通信を終了する、または使用不可にする。

それでも電源が切れないときは、「主なトラブルとその解決方法」の「電源が入らない／切れない、起動しない」（134ページ）をご覧ください。



移動するときなどしばらく作業を中断するときや、翌日まで本機を使わないときなどは、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードを使うと便利です。詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「バッテリの消費電力を節約する」、「省電力動作モードについて」をご覧ください。

再起動する

本機の設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

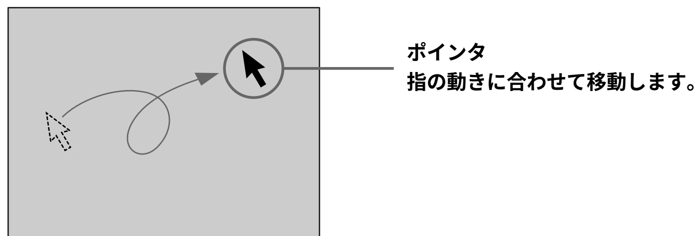
1 **［スタート］ボタンをクリックする。**
「スタート」メニューが表示されます。

2 **メニューの［Windowsの終了］をクリックする。**
「Windowsの終了」が表示されます。

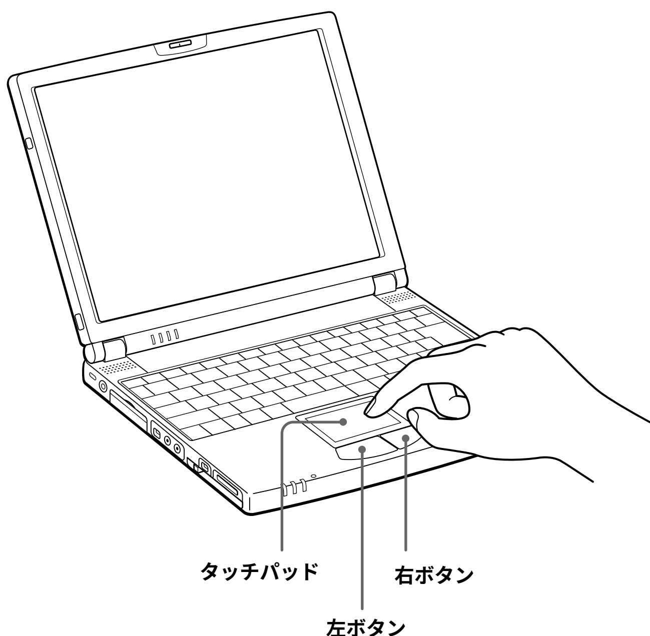
3 **「再起動する」を選び、つぎに［OK］をクリックする。**
「Windowsを終了しています」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

タッチパッドを使う

タッチパッドに触れて指を動かすと、画面上のポインタも同じ方向に移動します。



ポインタを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すだけで、メニューを選んだり、さまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。



クリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押します。[OK] や [キャンセル] などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。
また、タッチパッドを指で1回軽くたたいても同じ働きをします。

ダブルクリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。
ワードプロセッサや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。
またタッチパッドを、2回続けて軽くたたいても同じ働きをします。

ドラッグする

ポインタを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、タッチパッド上で指を動かし、希望の位置でボタンを離します。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。
また、タッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かして希望の位置で離しても同じ働きをします。

ドラッグアンドドロップする

ファイルなどのアイコンをドラッグし、他のフォルダやウィンドウ、ソフトウェアのアイコンなどの上で左ボタンを離します。ファイルを移動したり、コピーするときなどに使います。

右クリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。
押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

スクロールする

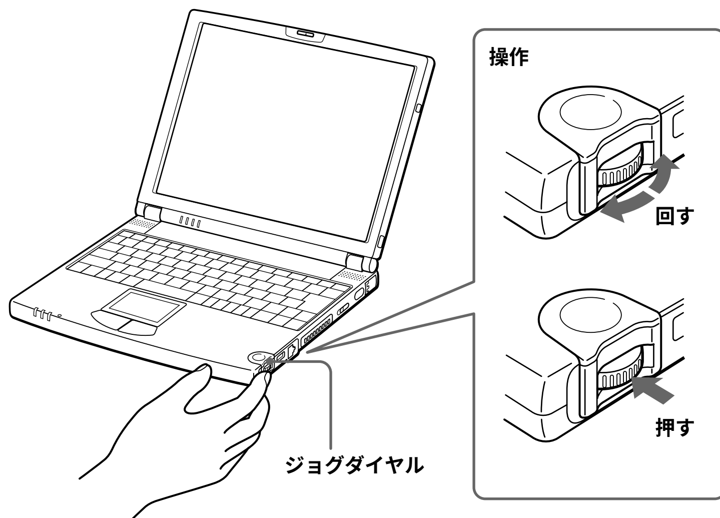
指をタッチパッド上の右端に触れて、上下に動かします。前面に表示されているウィンドウの垂直方向のスクロールバーを移動できます。
指をタッチパッドの右上または右下に置いたままにして、上方向または下方向にスクロールし続けることができます。
また、指をタッチパッドの下端に触れて、左右に動かします。前面に表示されているウィンドウの水平方向のスクロールバーを移動できます。



上記は工場出荷時の設定です。設定を変更したり、タッチパッドをより便利に使うには、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「タッチパッドを便利に使う」をご覧ください。

ジョグダイヤルを使う

ジョグダイヤルは、回したり押したりするだけで、画面のスクロールや画面の中の項目の選択などさまざまな操作が簡単にできます。ここでは、ジョグダイヤルの使いかたやジョグダイヤルでできる操作について説明します。



ディスプレイ画面上にはジョグダイヤルウィンドウが常に表示されています（工場出荷時*）。ジョグダイヤルウィンドウにはランチャー画面とガイド画面の2種類があります。それぞれの画面に対応してできる操作が異なります。実際の使いかたについて詳しくは、以下のページをご覧ください。

- 「ジョグダイヤルランチャー」画面　（29ページ）
- 「ジョグダイヤルガイド」画面（33ページ）

* 一定時間が過ぎると自動的にジョグダイヤルウィンドウを閉じるよう設定することもできます。詳しくは、「ジョグダイヤルの設定をする」（79ページ）をご覧ください。

ジョグダイヤルウィンドウのサイズを変更するには

ジョグダイヤルウィンドウ上でダブルクリックするたびに、ウィンドウの大きさを3段階に変更できます。



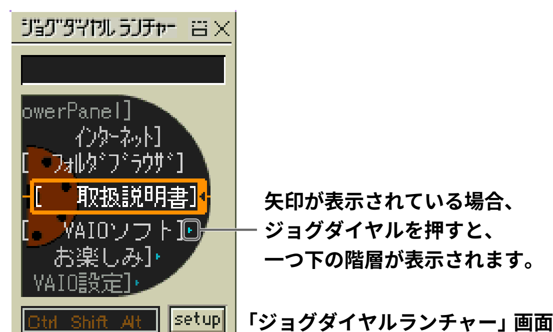
ジョグダイヤルウィンドウを閉じるには

ジョグダイヤルウィンドウ右上の をクリックすると、ウィンドウが閉じます。再度表示させたい場合は、ジョグダイヤルを操作するか、ディスプレイ画面右下のタスクトレイにある または をダブルクリックしてください。

「ジョグダイヤルランチャー」画面

ジョグダイヤルウィンドウがアクティブ状態（他のウィンドウが選択されていない状態）になっている場合は、「ジョグダイヤルランチャー」画面が表示されます。

操作項目について詳しくは、「ジョグダイヤルランチャーの操作」（31ページ）をご覧ください。



「ジョグダイヤルランチャー」画面

次のページにつづく

ジョグダイヤルを回して、操作したい項目を選び、ジョグダイヤルを押すと、「ジョグダイヤルガイド」画面に変わります。表示される項目に従って、ジョグダイヤルを回したり押すことで操作できます。



［輝度調整］を選択したときの「ジョグダイヤルガイド」画面

別の操作を実行したい場合などは、ジョグダイヤルウィンドウを「ジョグダイヤルランチャー」画面に戻してからやり直してください。「ジョグダイヤルガイド」画面になっているときは、ジョグダイヤルウィンドウまたはデスクトップ上をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながらジョグダイヤルを押すと「ジョグダイヤルランチャー」画面に戻ります。



「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使ってジョグダイヤルでできる操作を新たに割り当てたり、削除することができます。詳しくは、「ジョグダイヤルでできる操作を登録する」（69ページ）をご覧ください。

ジョグダイヤルランチャーの操作

ジョグダイヤルランチャーには、あらかじめ以下の項目が設定されています。

❑ **取扱説明書**

本機のオンラインマニュアルが起動します。

❑ VAIO**ソフト**

「Smart Label」、「Smart Capture」や「Media Bar」などのソニー製ソフトウェアが起動します。

❑ **お楽しみ**

壁紙チェンジャーを使って壁紙を替えたり、ジョグダイヤル スクリーンセーバー（81ページ）などを使うことができます。

❑ VAIO**設定**

外部モニター設定	ジョグダイヤルを押すと、別売りのディスプレイアダプターPCGA-DA5またはi.LINKポートリプリケーターを使って接続したコンピュータ用ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り替えることができます。液晶ディスプレイのみ→液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示→外部ディスプレイのみ→液晶ディスプレイのみ→...
輝度調整	ジョグダイヤルを回して本機の液晶ディスプレイの明るさを調節することができます。ジョグダイヤルを押すと、調節した明るさに設定されます。
消音設定	ジョグダイヤルを押すと、本機の内蔵スピーカーの音量を消すことができます。
音量設定	ジョグダイヤルを回して本機の内蔵スピーカーの音量を調節することができます。ジョグダイヤルを押すと、調節した音量に設定されます。
メガベース設定	メガベース（低音増幅機能、ヘッドホン使用時のみ）のオン／オフを切り替えることができます。
Sony Notebook Setup	「Sony Notebook Setup」ソフトウェアが起動して、プリンタポートや、本機起動時の設定を変更したり、タッチパッドの詳細設定などをすることができます。
VAIO Action Setup	「VAIO Action Setup」ソフトウェアが起動して、ジョグダイヤルでできる操作の設定を行ったりすることができます。

❑ **インターネット**

ジョグダイヤルを押すと、VAIOホームページ（http://www.vaio.sony.co.jp/）が表示されます。

❑ PowerPanel

「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機の動作モードを変更したり、「BatteryScope」ソフトウェアを使ってバッテリの残量などを確認できます。

「PowerPanel」について詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「バッテリの消費電力を節約する」を、「BatteryScope」について詳しくは、「バッテリの残量を確認する」をご覧ください。

❑ **フォルダブラウザ**

ジョグダイヤルを使って、フォルダの中を閲覧（ブラウジング）することができます。

「ジョグダイヤルガイド」画面

起動中のソフトウェアがある場合は、「ジョグダイヤルガイド」画面が表示されます。ウィンドウサイズの変更やスクロールなど、使用中のソフトウェアによってジョグダイヤルでできる操作が異なります。



ジョグダイヤルガイド画面

ソニー製ソフトウェアの操作

各ソフトウェアに割り当てられた操作がジョグダイヤルでできます。

ジョグダイヤルに対応していないウィンドウがアクティブ状態の場合は、以下の操作はできません。ジョグダイヤルに対応していないソフトウェアの操作については、「ジョグダイヤル非対応のソフトウェアの操作」（35ページ）をご覧ください。

ソフトウェア	操作と機能
DVgate Assemble	DVgate Assemble**ウィンドウ時** ジョグダイヤルを回すと、リストのスクロールができます。 **モニタウィンドウ時** ジョグダイヤルを回すと、一時停止中のコマ送り／戻しの切り替えができます。
DVgate Motion	DVgate Motion**ウィンドウ時** ジョグダイヤルを回すと、一時停止中のコマ送り／戻しの切り替えや再生中の1倍／逆1倍の切り替えができます。
DVgate Still	ジョグダイヤルを回すと、一時停止中のコマ送り／戻しの切り替えができます。

次のページにつづく

ソフトウェア	操作と機能
Media Bar	ジョグダイヤルを回すと、トラックを選択できます。ジョグダイヤルを押すと、再生／一時停止の切り替えができます。
Navin' You	ジョグダイヤルを回すと、地図の拡大や縮小ができます。ジョグダイヤルを押すと、ファンクションパネルの表示／非表示の切り替えができます。
PictureGear	ジョグダイヤルを回すと、シートビューと一枚表示ウィンドウで拡大や縮小ができます。ジョグダイヤルを押すと、最適な大きさになります。
Smart Capture	**Smart Captureウィンドウ時** Shiftキーを押しながらジョグダイヤルを操作することにより、簡易モードと詳細モードの切り替えができます。 • 簡易モード：キャプチャモード（スチルモードまたはビデオメールモード）を選択できます。 • 詳細モード：「Smart Capture」の基本機能を階層メニューから操作できます。詳しくは、「Smart Capture」のヘルプをご覧ください。 **Still Viewerウィンドウ時** 表示される静止画像を選択できます。ジョグダイヤルを回すと、その前後の静止画が表示されます。 **Movie Playerウィンドウ時** 表示される動画像を選択できます。ジョグダイヤルを回すと、その前後の動画が表示されます。ジョグダイヤルを押すと、現在表示されている動画の再生／一時停止の切り替えができます。

ソフトウェア	操作と機能
Smart Label	ジョグダイヤルを操作することでメニューを選べます。 **Time Viewモード時** ジョグダイヤルを操作することで、オペレーション時間を変えることができます。まずジョグダイヤルを回して［時間操作］を選び、ジョグダイヤルを押して時間単位を切り替えます。次に、ジョグダイヤルを回して、オペレーション時間を変えます。 メニューに戻るには、ジョグダイヤルを長く押してください。 詳しくは、「Smart Label」のヘルプをご覧ください。
Smart Script	ジョグダイヤルを押すと、スクリプト実行の開始／一時停止の切り替えができます。ジョグダイヤルを回すと、ステップを実行します。
Smart Write	ジョグダイヤルを操作することでメニューを選べます。 **カーソル移動** ジョグダイヤルを回すと、カーソルが上下します。ジョグダイヤルを押すと、カーソルが文頭／文尾へ移動します。メニューに戻るには、ジョグダイヤルを長く押してください。

ジョグダイヤル非対応のソフトウェアの操作

使用中のソフトウェアやプログラムがジョグダイヤルに対応していない場合は、ウィンドウのサイズを変更したり、ウィンドウの中の項目を選択することができます。

一般アプリケーション

［最大化］、［最小化］、［終了］、［スクロール］、［ジョグダイヤルランチャー］、［メニュー］から選ぶことができます。



次のページにつづく

項目	操作と機能
最大化*	ジョグダイヤルを押すと、アクティブ状態のウィンドウが最大化します。もう1度押すと、元の大きさに戻ります。
最小化*	ジョグダイヤルを押すと、アクティブ状態のウィンドウが最小化します。もう1度押すと、元の大きさに戻ります。
終了	ジョグダイヤルを押すと、アクティブ状態のソフトウェアやプログラムを終了します。
スクロール*	ジョグダイヤルを押してから上下に回すと、アクティブ状態のウィンドウがスクロールします。
ジョグダイヤルランチャー	「ジョグダイヤルランチャー」画面が表示されます。
メニュー*	ジョグダイヤルを押すと、メニューが表示されます。ジョグダイヤルを上下に回してから押すと、メニューの中の項目を選ぶことができます。

* ソフトウェアやプログラムによって、選択できない場合があります。

ダイアログ

「画面のプロパティ」などのウィンドウがアクティブ状態の場合は、「ダイアログ」が表示され、ジョグダイヤルを回して、タブやウィンドウの中の項目を選択したり、押すことによりEnterキーを押したときと同じ操作を行うことができます。



ダイアログ画面

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、コンピュータへ命令を送ることができます。ここでは、主なキーのなまえと機能を紹介します。
文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」（44ページ）をご覧ください。

ご注意

- キートップがはずれてしまったら、元の位置に戻してカチッと音がするまで押し込んでください。Enterキーとスペースキー、Shiftキーがはずれたときは、「キートップがはずれた」（149ページ）をご覧ください。
- キートップを故意にはずしたり、取り付けるときに無理に力を加えると故障や破損の原因となります。取り扱いにはご注意ください。



なまえ	機能
Esc（エスケープ）キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（42ページ）をご覧ください。
Num Lk（ナムロック）キー	テンキーと組み合わせて使うと、数字を入力できます。Num Lkキーを押すと、液晶ディスプレイ左下にある(Num Lock）ランプが点灯します。もう一度、Num Lkキーを押すと消灯します。 詳しくは、「Num Lkキーの機能」（40ページ）をご覧ください。

なまえ	機能
Prt Sc（プリントスクリーン）キー	表示されている画面全体をクリップボードに取り込みます。Altキーを押しながらこのキーを押すと、選択されているウィンドウだけを取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェアで保存、加工、印刷できます。
Insert（インサート）キー	文字入力モードを切り替えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとに、カーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするか切り替えることができます。
Delete（デリート）キー	カーソルの右側の文字を消します。
Back Space（バックスペース）キー	カーソルの左側の文字を消します。
矢印キー	カーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示できます。
アプリケーションキー	タッチパッドの右ボタンを押したときと同じ働きをします。
Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。オルタネートキーともいいます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Windows（ウィンドウズ）キー	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書および「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（41ページ）をご覧ください。
Fn（エフエヌ）キー	キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。ファンクションキーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（42ページ）をご覧ください。

なまえ	機能
Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
Shift（シフト）キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。

Num Lkキーの機能

Num Lkキー

テンキー

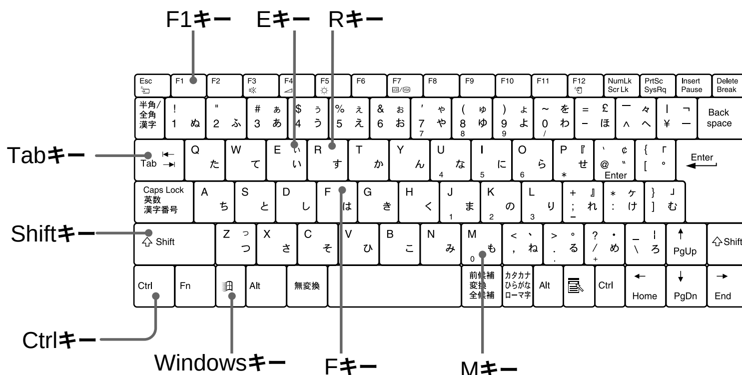


なまえ	機能
テンキー	Num Lkキーを押し、液晶ディスプレイ左下の（Num Lock）ランプが点灯しているときにこれらのキーを押すと、キー前面左側に印字されている数字を入力できます。 例）Uキーを押す。 「4」が入力されます。

キーボードショートカット

メニューを開かなくても、キーボードから各種コマンドを実行できます。

Windowsキーとの主な組み合わせと機能



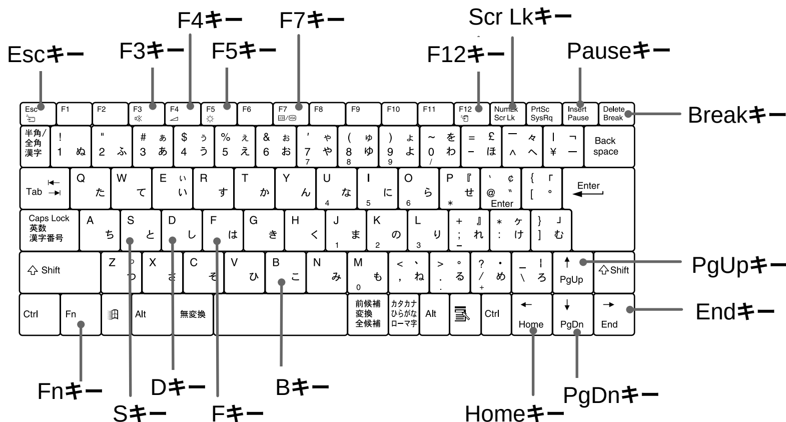
キー操作の表記

例：⊞ +F ➡ Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	機能
⊞ +F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞ +E	エクスプローラ*を起動します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［ファイル名を指定して実行...］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示されているすべての画面を最小化します。
Shift+ ⊞ +M	最小化されているすべての画面を元のサイズに戻します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り替えます。

* コンピュータの内容（ファイルやフォルダ）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピュータのどこに保存されているか、一目で確認できます。

Fnキーとの主な組み合わせと機能



キー操作の表記

例：Fn + (Esc) ➡Fnキーを押しながらEsc（エスケープ）キーを押す。

組み合わせ	機能
Fn+（Esc）*	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブ、CPUへの電源供給を停止して、使用電力を削減します（システム サスペンドモード）。
Fn+（F3）*	本機の内蔵スピーカーの音声を入／切します。
Fn+（F4）*	本機の内蔵スピーカーの音量が調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量表示が表示されます。このときに↑または→キーを押すと大きくなり、←または↓キーを押すと小さくなります。
Fn+（F5）*	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ表示が表示されます。このときに↑または→キーを押すと明るい画像になり、←または↓キーを押すと暗い画像になります。
Fn+LCD/VGA（F7）*	別売りのディスプレイアダプターPCGA-DA5またはi.LINKポートリプリケーターPCGA-UPR5を使って接続したコンピュータ用ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り替えます。 液晶ディプレイのみ→液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示→外部ディスプレイのみ→液晶ディスプレイのみ→…

組み合わせ	機能
Fn+(F12) *	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブだけでなく、CPUやメモリへの電源供給も停止します（システム ハイバネーションモード）。使用環境はハードディスクに書き込まれるので、復帰後もそのまま作業できます。
Fn+Scr Lk（スクロールロック）キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Fn+Pause（ポーズ）キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Fn+Break（ブレイク）キー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Fn+PgUp（ページアップ）キー	現在表示している画面の前のページを表示します。
Fn+End（エンド）キー	行の最後にカーソルを移動します。
Fn+PgDn（ページダウン）キー	現在表示している画面の次のページを表示します。
Fn+Home（ホーム）キー	行の先頭にカーソルを移動します。
Fn+B*	メガベース（低音増幅機能、ヘッドホン使用時のみ）のオン／オフを切り替えます。
Fn+F	画面の解像度を液晶パネルの解像度より低くしているとき、液晶ディスプレイ表示の拡大／縮小を切り替えることができます。
Fn+D	本機の画面が暗くなります（LCD/Videoスタンバイモード）。 いずれかのキーを押すと元の状態に戻ります。
Fn+S*	本機の液晶ディスプレイへの電力供給を停止して、使用電力を削減します。（システム アイドルモード）。ただし、CPUへの電力供給は停止しないため、システム サスペンドモード（Fn+Esc）よりも早く通常の動作状態に復帰できます

* ジョグダイヤルを使っても操作ができます。詳しくは、「ジョグダイヤルランチャーの操作」（31ページ）をご覧ください。

ご注意

Windows 98起動後でないと作動しないものがあります。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。キーボード上の各キーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（37ページ）をご覧ください。

日本語入力のまえに

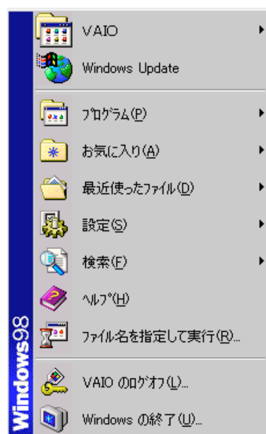
ここでは、「ワードパッド」ソフトウェアを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 「ワードパッド」を起動する

まず、「ワードパッド」を起動します。

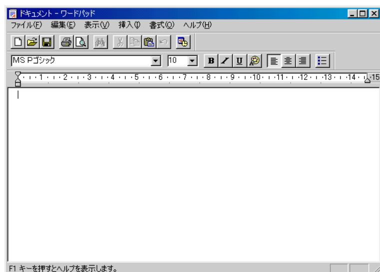
1 ［スタート］ボタンをクリックする。

スタートメニューが表示されます。



2 **［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］から［ワードパッド］をクリックする。**

「ワードパッド」が起動し、文字を入力する画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。

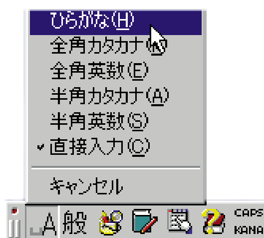
日本語を入力するためには、ディスプレイ画面に表示されているMS-IMEのツールバーを使って、入力文字を切り替える必要があります。



MS-IMEツールバー

1 **MS-IMEツールバーの［␣A］をクリックする。**

文字入力選択メニューが表示されます。



2 **［ひらがな］をクリックする。**

ディスプレイ画面上に表示されているツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。



［␣A］から［あ］に変わる。

次のページにつづく

ツールバーが表示されていないときは
ディスプレイ画面右下のタスクトレイにある をクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。
ツールバーについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドをご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。
なお、工場出荷時はローマ字入力に設定されています。

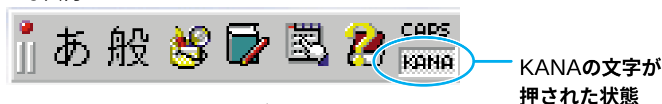
ローマ字入力
キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

かな入力
キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

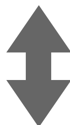
かな入力とローマ字入力を切り換える

MS-IMEツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。
ローマ字入力とかな入力とが切り替わります。

かな入力



KANAの文字が押された状態



［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押します。

ローマ字入力



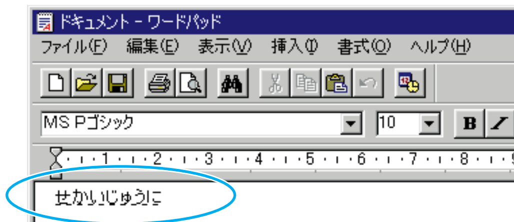
KANAの文字が押されていない状態

文字入力を練習する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

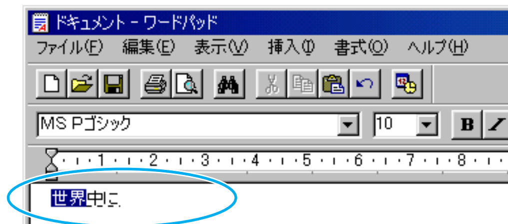
1 「世界中に」の読みを入力する。



- **ローマ字入力の場合**
  S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

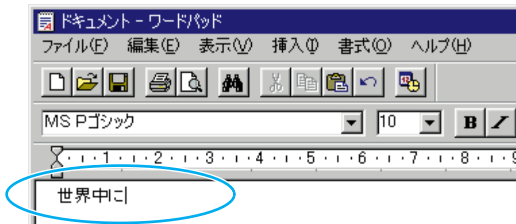
2 スペースキーを押す。



入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

次のページにつづく

3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

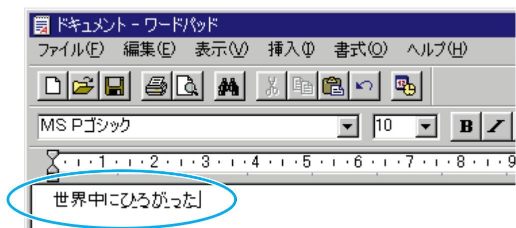
Backspace**キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete**キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc**キー**：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

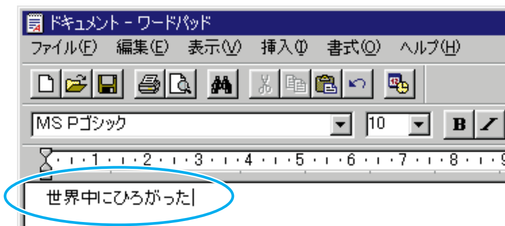
1 「ひろがった」の読みを入力する。



- **ローマ字入力の場合**
  H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

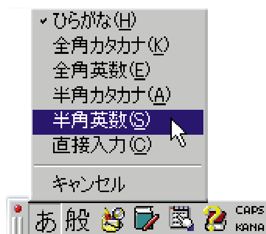
2 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

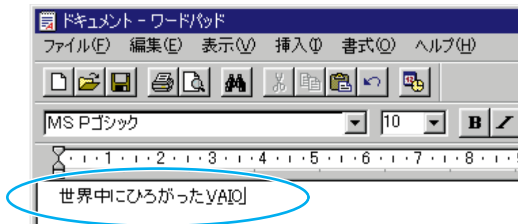
3 英字を入力する

1 MS-IMEのツールバーの［あ］をクリックして、［半角英数］を選ぶ。



ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。



3 Enterキーを押す。

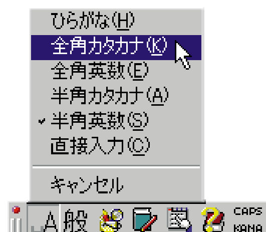


アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

次のページにつづく

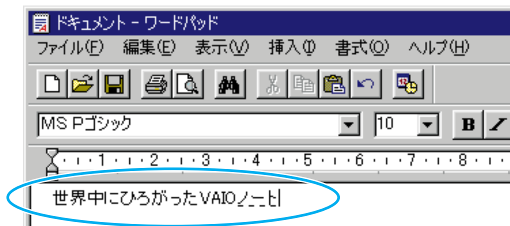
4 カタカナを入力する

1 MS-IMEのツールバーの［␣A］をクリックして、［全角カタカナ］を選ぶ。



ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

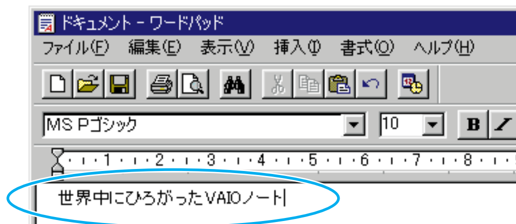
2 「ノート」の読みを入力する



- **ローマ字入力の場合**
  N、O、-（長音、［= ほ］キー）、T、Oの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  の、―（長音、［¥ ー］キー）、と、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったVAIOノート」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドまたはMS-IMEのヘルプをご覧ください。



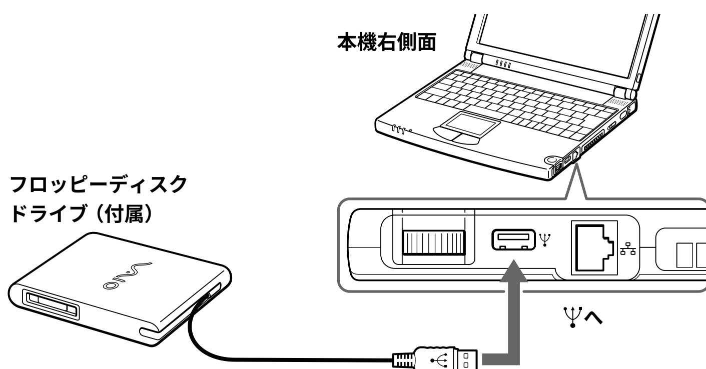
- 全角の「～」を入力するには、MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（48ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまでスペースキーを押します。
- URLで使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、MS-IMEツールバーで「半角英数」（49ページ）または「直接入力」を選び、Shiftキーを押しながら[^]キーを押します。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽い、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

付属のUSBケーブルを使って、フロッピーディスクドライブ（付属）を本機に接続します。



接続すると、フロッピーディスクドライブは自動的に認識されます。

ご注意

付属のUSBフロッピーディスクドライブは本機専用です。他のパソコンでは使用できません。



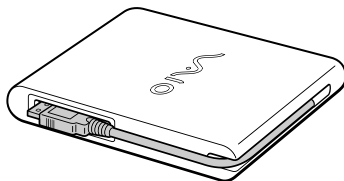
- USBマウスなど他のUSB機器とあわせてご使用になるときは、付属の変換アダプタをつなぎ、本機左側面の（専用ミニUSB）コネクタへつないでください（113ページ）。ただし、別売りのi.LINKポートリプリケーターを使用しているときは、専用ミニUSBコネクタは使えません。
- フロッピーディスクドライブは本機の電源を入れたままで抜き差しできます。

フロッピーディスクドライブを取りはずすには

フロッピーディスクドライブのアクセスランプ（53ページ）が点灯していないことを確認してから、本機のコネクタからフロッピーディスクドライブを抜きます。

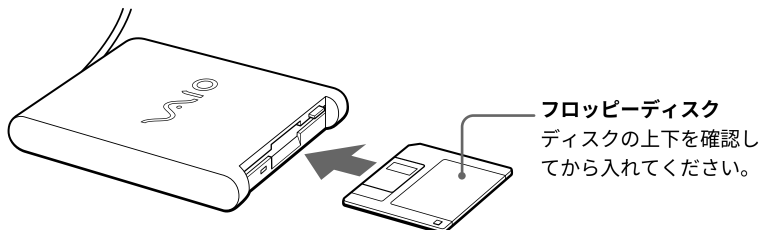
フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときは

取りはずした後は、ケーブルをフロッピーディスクドライブ側面にはめ込むと、ケーブルが邪魔になりません。



フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



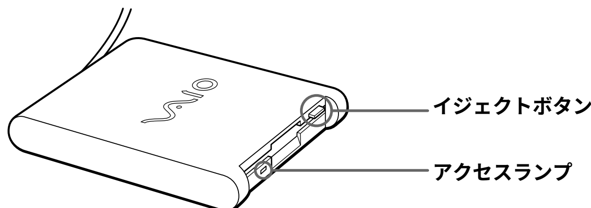
本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。詳しくは、「初期化について」（55ページ）をご覧ください。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。
その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」（56ページ）をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

ディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。

ご注意

アクセスランプが点灯しているときにイジェクトボタンを押すと、ディスクおよびデータの破損の原因となります。



イジェクトボタンを押してもフロッピーディスクが取り出せないときは

フロッピーディスクドライブを取りはずして、VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

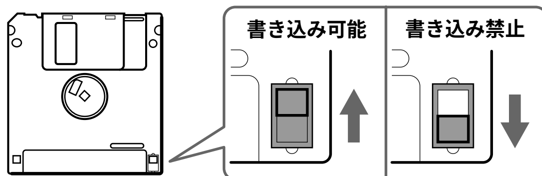
❑ **書き込み可能**

データの書き込みが可能な状態です。

❑ **書き込み禁止**

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

フロッピーディスク裏面



初期化について

フロッピーディスクを使うには、「初期化」(「フォーマット」ともいう)という作業が必要です。
本機で初期化するには、以下の手順に従ってください。

1 初期化したいフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。
入れかたについては、53ページをご覧ください。

2 ディスプレイ画面上の[マイ コンピュータ]をダブルクリックする。
「マイ コンピュータ」が表示されます。

3 [3.5インチFD (A:)]を右クリックし、[フォーマット]をクリックする。
フォーマットの画面が表示されます。

4 [開始]をクリックする。
フロッピーディスクが初期化されます。

5 [閉じる]をクリックする。

「DOS/V 1.44MB フォーマット済」などと書かれた、すでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

ご注意

すでにデータが書き込まれているフロッピーディスクを初期化すると、そのデータは消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

使用できるフロッピーディスク

3.5型フロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。
本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きともに可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE（ドライブスペース）、DISKCOPYコマンドは実行不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

“メモリースティック”を使う

“メモリースティック”は、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。“メモリースティック”対応機器間でのデータをやりとりするのに便利なだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの1つとしてデータを保存するときもお使いいただけます。
“メモリースティック”には、以下の種類があり、本機ではどのタイプも使用できます。

- 4Mバイト（MSA-4A）
- 8Mバイト（MSA-8A）
- 16Mバイト（MSA-16A）
- 32Mバイト（MSA-32A）
- 64Mバイト（MSA-64A）



本機に付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアと組み合わせることにより、“メモリースティック”対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどで撮った画像を手軽に閲覧することなどができます。詳しくは、「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

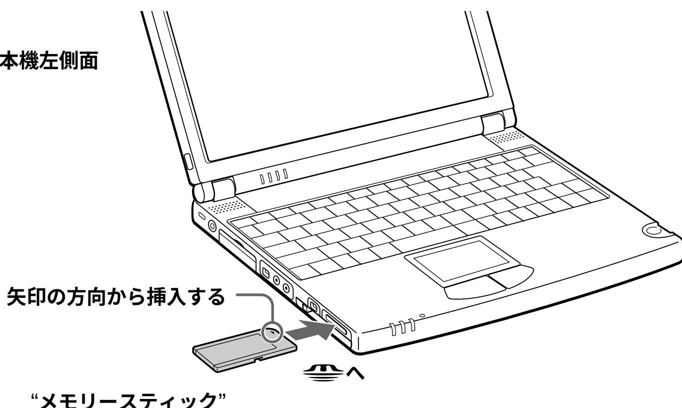
ご注意

“メモリースティック”をお使いになるときは、以下の点にご注意ください。

- “メモリースティック”の端子部に手や金属で触れないでください。
- ラベルの貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 持ち運びや保管の際は、専用の収納ケースに入れてください。
- 大切なデータはバックアップをとっておくことをおすすめします。
- メモリースティックランプが点灯中に“メモリースティック”を抜かないでください。
- 下記の場合、記録したデータが消えたり壊れたりすることがあります。
  - メモリースティックランプが点灯中に“メモリースティック”を抜いたり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

“メモリースティック”を入れる

“メモリースティック”を本機左側面のメモリースティックスロットに差し込みます。正しく挿入するとカチッと音がしてスロット内のコネクタに接続されます。



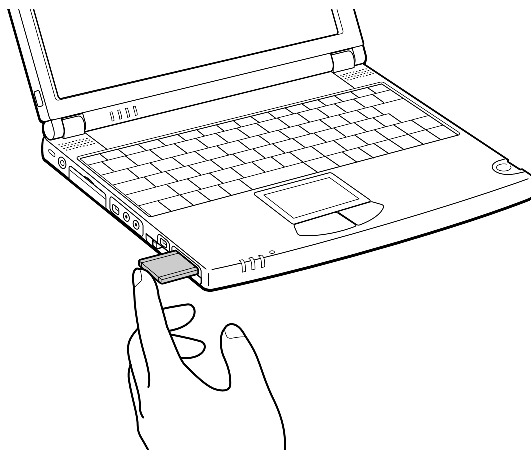
“メモリースティック”が正しく接続されると、Sドライブとして認識されます。画面上の［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックして、「リムーバブルディスク（S:)」と表示されていることを確認してください。［リムーバブルディスク（S:)］アイコンをダブルクリックすると、“メモリースティック”の内容が表示されます。

ご注意

差し込む際は、“メモリースティック”の向きにご注意ください。無理に逆向きに入れようとすると、本機のメモリースティックスロットや“メモリースティック”本体が破損する恐れがあります。

“メモリースティック”を取り出すには

メモリースティックランプが点灯していないことを確認してから“メモリースティック”を奥まで押し込みます。いったん手を離し、“メモリースティック”を引き抜いてください。



“メモリースティック”のウィンドウが表示されているときに“メモリースティック”を引き抜くと、ウィンドウは自動的に閉じます。

ご注意

- メモリースティックランプが点灯しているときに“メモリースティック”を取り出さないでください。データが失われるおそれがあります。画像ファイルなどの大容量データの読み出しに時間がかかる場合がありますので、“メモリースティック”を取り出す際はご注意ください。
- 本機のメモリースティックスロットから“メモリースティック”を取り出すときに、“メモリースティック”を押して指を離すと、“メモリースティック”が勢いよく飛び出る場合があります。最後まで指を添えて取り出すようにしてください。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、“メモリースティック”には書き込み禁止のタブがついています。このタブを左右に動かして、“メモリースティック”を書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

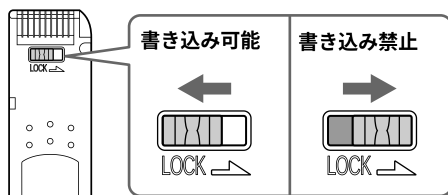
❑ **書き込み可能**

データの書き込みが可能な状態です。

❑ **書き込み禁止**

タブを右にスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

“メモリースティック”裏面



フォーマットについて

市販の“メモリースティック”はすでにフォーマット（初期化）されており、すぐにお使いになれます。本機で“メモリースティック”を再フォーマットするときは、付属の「メモリースティックフォーマット」ソフトウェアを使います。下記の手順でフォーマットしてください。
「メモリースティックフォーマット」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、このソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

すでにデータが書き込まれている“メモリースティック”をフォーマットすると、そのデータは消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

1 本機に“メモリースティック”を入れる。

詳しくは、58ページをご覧ください。

2 ［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］にポインタを合わせ、［メモリースティックユーティリティ］を選んで、［メモリースティックフォーマット］をクリックする。

3 ［フォーマット開始］をクリックする。

フォーマットが始まります。

CD-ROMドライブをつなぐ

CD-ROMはコンピュータで扱うプログラムやデータを記録した、読みとり専用の記録メディアです。

本機には、本機専用の下記ドライブをつなぐことができます。あらかじめ各ドライブ用のドライバがインストールされているので、接続するだけでご使用になれます。

• CD-ROMドライブ PCGA-CD51（PCG-Z505Nのみに付属）または PCGA-CD5
• CD-Rドライブ PCGA-CDR51
• CD-RWドライブ PCGA-CDRW51

ここでは、PCGA-CD51の取り付けかたについて説明します。

ご注意

• 接続のしかたや使いかたは、お使いになるドライブによって異なります。詳しくは、ドライブに付属の取扱説明書をご覧ください。
• 本機で音楽CDを聞くには、CD-ROMドライブPCGA-CD51またはCD-RドライブPCGA-CDR51、CD-RWドライブPCGA-CDRW51が必要です。CD-ROMドライブPCGA-CD5をお使いの場合は、本機の内蔵スピーカーから音は出ません。詳しくは、「音楽CD／ビデオCDを再生する」（101ページ）をご覧ください。
• CD-ROMドライブによっては本機で使用できないものもあります。詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にご確認ください。

CD-ROMドライブを取り付ける

PCGA-CD51はPCカードを使って本機とやりとりします。

ご注意

プロダクト リカバリ CD-ROMで本機を再セットアップするときは（154ページ）、本機の電源を切ってからCD-ROMドライブを取り付け、本機の電源を入れ直してください。

それ以外のときは、本機の電源を入れたままでもCD-ROMを取り付けることができます。

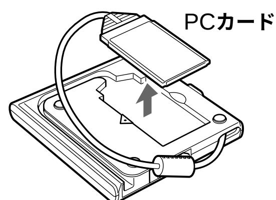
1 **PCカードスロットプロテクタを取りはずす。**

スロットを保護するために、PCカードスロットプロテクタが装着されています。PCカードを挿入する前に、プロテクタを取り出す必要があります。

イジェクトボタンを起こしてから押し、プロテクタの端を持って、スロットから引き抜きます。

次のページにつづく

2 CD-ROM**ドライブの底面からPCカードをはずす。**

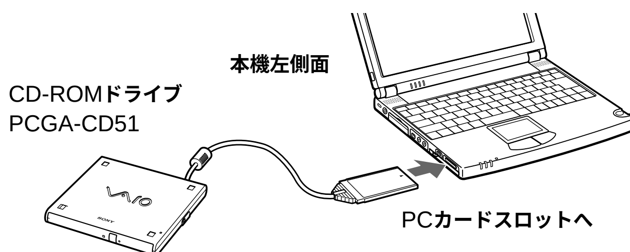


3 PC**カードを本機に取り付ける。**

PCカードのSONYという文字が書かれている面を上にして取り付けます。スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。イジェクトボタンは、いったん引いてから液晶ディスプレイ方向に倒して収納してください。

カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。

「マイコンピュータ」内にCD-ROMドライブのアイコンが表示されます。



CD-ROMドライブを取りはずすには

「PCカードを取り出すには」（129ページ）の手順に従ってPCカードを取り出します。

ご注意

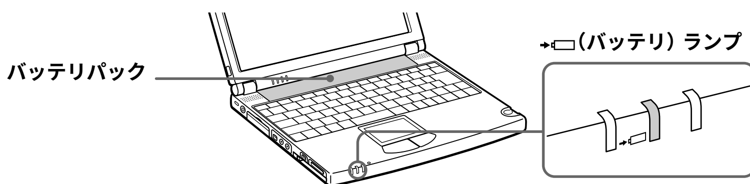
- CD-ROMドライブのトレイにディスクが入っていないことを確認してから取りはずしてください。
- イジェクトボタンを押してもディスクが取り出せないときは、CD-ROMドライブ底面のピンをマニュアルイジェクト穴に押し込んでください。詳しくは、CD-ROMドライブPCGA-CD51の取扱説明書をご覧ください。

バッテリで使う

充電したバッテリパックを本機に装着していると、AC電源につながなくても本機を使えます。別売りの大容量タイプのバッテリパックPCGA-BPZ52を取り付けることもできます。

ご注意

- 付属のバッテリは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときからバッテリが消耗している状態になっていることがあります。
- 本機は、バッテリの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモード*になるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。
  長時間席を外されるときなどに、バッテリが消耗した際、自動的にシステム ハイバネーションモードにならないと、本機の電源が切れ、作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。
  バッテリでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動でシステム サスペンドモード、またはシステム ハイバネーションモードにしてください。
  * システム ハイバネーションモードでは、作業中の状態がハードディスクに保存され、本機の電源が切れます。
  操作のしかたなど詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「省電力動作モードについて」をご覧ください。
- AC電源をつながない状態で、本機がシステム サスペンドモードのときにバッテリを交換すると、保存されていないデータは失われます。必ず、電源を切ってから交換してください。



(バッテリ）ランプについて

本機の動作状態を示します。

点灯	バッテリ動作中
(パワー）ランプと一緒に点滅	バッテリの残量が少ない状態
2度連続点滅	バッテリ充電中
消灯	バッテリ切れ、またはAC電源で動作中

次のページにつづく

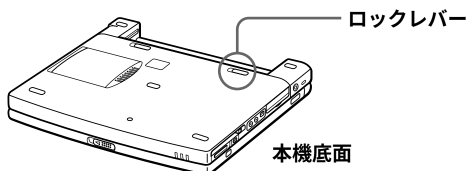


- 完全に充電したバッテリでの使用時間の目安は、標準タイプで約1〜2時間、大容量タイプで約3.5〜6時間です。バッテリの使用時間について詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「バッテリの残量を確認する」をご覧ください。
- AC電源につないでいるときは、バッテリパックを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- バッテリで長時間使うには、付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機の動作モードをスタミナモードに変更することで、バッテリの使用時間をのばすことができます。詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「バッテリの消費電力を節約する」をご覧ください。
- バッテリの残量を確認するには、付属の「BatteryScope」ソフトウェアを起動すると、バッテリの残量と予想使用時間を確認できます。詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「バッテリの残量を確認する」をご覧ください。

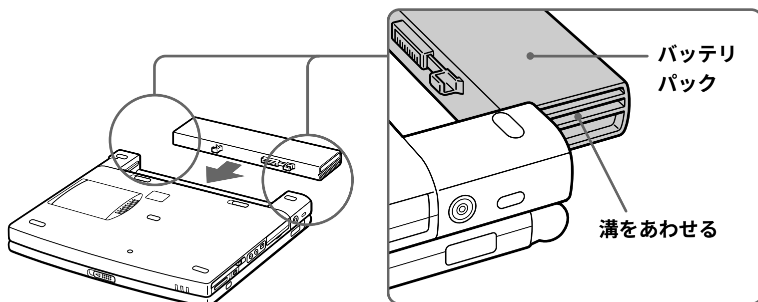
バッテリパックを取り付ける

本機後面のバッテリ取り付け部にバッテリパックを取り付けます。

1 **本機底面のロックレバーが解除されている（外側にある）ことを確認する。**



2 **本機後面とバッテリ両端の溝をあわせ、カチッと音がするまでバッテリを差し込む。**



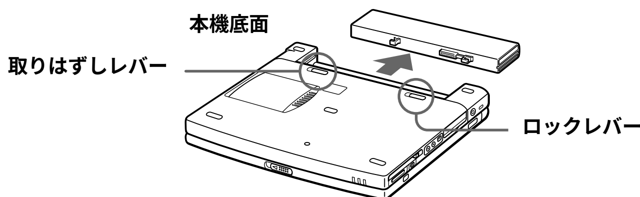
3 **ロックレバーを内側にずらして、バッテリを固定する。**

バッテリパックを取りはずすには

1 **本機の電源を切り、液晶ディスプレイを閉じる。**

2 **ロックレバーを外側にずらす。**

3 **取りはずしレバーを外側にずらして、バッテリを取りはずす。**





AC電源につないでいるときは、本機の電源を切らなくてもバッテリの取り付け／取りはずしができます。

ご注意

- バッテリを取り付け／取りはずすときは、本機の液晶ディスプレイを閉じてから行ってください。
- AC電源をつながない状態で、本機の電源を入れたままバッテリを取りはずすと、作業中のデータが失われます。
- AC電源をつながない状態で、本機がシステム サスペンドモードのときにバッテリを取りはずすと、保存されていないデータは失われます。必ず、電源を切ってから取りはずしてください。

バッテリを充電する

本機をAC電源につないでいれば、本機を使っていてもバッテリは充電されます。充電中は、➔▭（バッテリ）ランプが2度連続で点滅します。
付属の標準バッテリの場合、バッテリの残量が空の状態から充電されるまでに約1.5時間かかります（約85%充電、使用状況による）。
バッテリが約85%まで充電されると、➔▭（バッテリ）ランプは消灯します。
約85%まで充電されたバッテリは、約1時間後に完全に充電され、「バッテリの充電が完了しました」のメッセージが流れます。

インターネットを楽しむ

本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話回線につないでインターネットを楽しむことができます。
職場などのネットワーク（LAN）経由でインターネットにつなぐこともできます。
インターネットに接続する方法について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「カスタマー登録する／インターネットに接続する」、および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

外出先でインターネットにアクセスする

ここでは、外出先でインターネットにアクセスする方法の概略を説明します。外出先でアクセスできるようにしておくと、外出先で電子メールを送信したいときや、電子メールを確認したいときに便利です。

外出先でインターネットにアクセスするには、4通りの方法があります。

- 公衆電話を使ってアナログ接続する
- 公衆電話を使ってISDN接続する
- デジタル携帯電話を使って接続する
- PHSを使って接続する

公衆電話を使ってアナログ接続する

本機はモデムを内蔵しているので、モジュラジャックのある公衆電話に直接つなげます。

テレホンコードとモジュラジャック付きの電話機さえあれば、どこからでもアクセスできますが、アナログ接続のため、使用する電話機によってはすぐに接続が切れてしまうことがあります。

1 **本機と電話機のアナログポートをテレホンコードでつなぐ。**

2 **電話機の「データ通信」ボタンを押す。**

3 **テレホンカードを入れる。**

4 **通信用のソフトウェアを起動する。**

これでインターネットにアクセスできます。

通信を終了するときは

次の2つの方法があります。使用するソフトウェアにあわせて使い分けてください。

- ディスプレイ画面右下にあるアイコンを右クリックして、ポップアップメニューを表示させてから、［切断］を選ぶ。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。

ご注意

公衆電話のデジタルポートにはつながないでください。故障の原因となります。

公衆電話を使ってISDN接続する

ISDNのTA（ターミナルアダプタ）カードを本機に装着してモジュラジャックのある公衆電話につなぐと、外出先でもISDN経由で接続できます。

通信速度が速く（最大64kbps）、安定した状態でアクセスできますが、市販のISDNのターミナルアダプタカードが必要です。

ご注意

アクセスしようとしているプロバイダがISDNに対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。プロバイダによっては通常のアナログ接続用とISDN接続用で、異なる電話番号を用意していることがあります。

デジタル携帯電話を使って接続する

本機にデジタル携帯電話を接続して、インターネットにアクセスできます。デジタル携帯電話が使えるところではどこからでも、また移動中でもアクセスできますが、通信速度は遅く、携帯電話に合わせた市販の接続キットが必要です。

ご注意

接続キットや接続のしかたについて詳しくは、お使いのデジタル携帯電話の電話会社にお問い合わせください。

PHSを使って接続する

本機にPHSを接続して、インターネットにアクセスできます。
通信速度が速く、PHSが使えるところではどこからでもアクセスできますが、PHSにあわせた市販の接続キットが必要です。また、PIAFS（ピアフ）方式で接続するときは、プロバイダなどがPIAFSに対応している必要があります。

ご注意

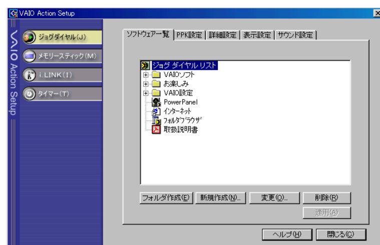
PIAFS方式でアクセスするときは、接続しようとしている電話番号がPIAFS方式に対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。

ジョグダイヤルでできる操作を登録する

本機に付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使って、ジョグダイヤルでできる操作を新たに登録または削除できます。

1 **ジョグダイヤルウィンドウの［setup］をクリックする。**

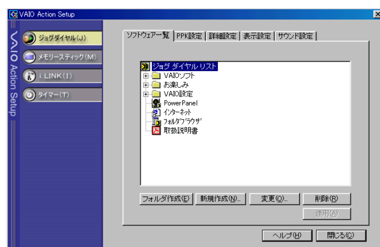
「VAIO Action Setup」が表示されます。





- ジョグダイヤルウィンドウがディスプレイ画面上に表示されていない場合は、ジョグダイヤルを操作するか、ディスプレイ画面右下のタスクトレイにある　または　をダブルクリックしてジョグダイヤルウィンドウを表示させてください。
- ディスプレイ画面右下のタスクトレイにある　または　を右クリックしてポップアップメニューを表示させ、［ジョグダイヤル　セットアップ］をクリックして「VAIO Action Setup」を表示させることもできます。

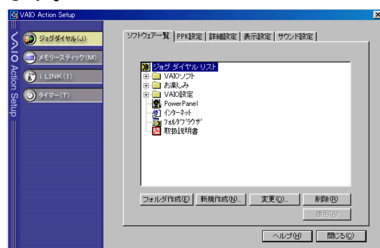
2 **画面左側の［ジョグダイヤル］をクリックする。**



次のページにつづく

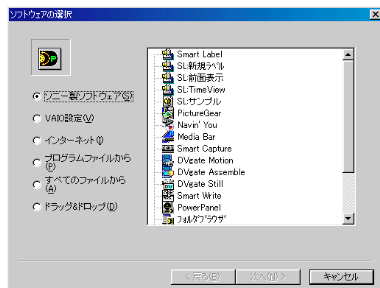
4 ［ソフトウェア一覧］タブをクリックする。

すでに登録されているジョグダイヤルでできる操作の一覧が表示されます。



4 ［新規作成］タブをクリックする。

「ソフトウェアの選択」が表示されます。



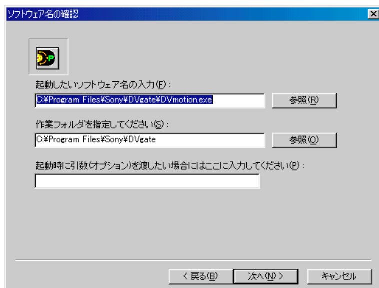
5 画面左側のボタンで設定方法を選び、画面右側の一覧から登録したいソフトウェアを選ぶ。

画面左側のボタンには、以下の設定方法が用意されています。

- ソニー製ソフトウェア：ソニー製のソフトウェアが表示されます。
- VAIO設定：音量設定や、「Sony Notebook Setup」ソフトウェアなどから選べます。
- インターネット：Microsoft Internet Explorerなどから選べます。
- プログラムファイルから：［スタート］メニューの［プログラム］にあるソフトウェアが表示されます。
- すべてのファイルから：本機の内容（ファイルやフォルダ）がツリー表示されます。
- ドラッグ&ドロップ；他のウィンドウから好みのソフトウェアをドラッグアンドドロップ（27ページ）して設定できます。

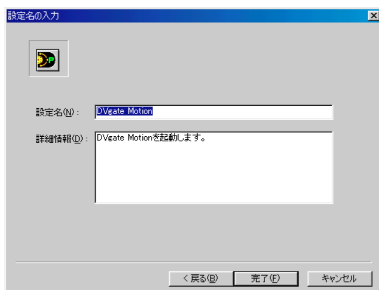
6 ［次へ］をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」が表示されます。



7 設定内容を確認し、［次へ］をクリックする。

「設定名の入力」が表示されます。



8 「設定名」と「詳細情報」を確認または入力し、［完了］をクリックする。

手順3の画面に戻り、［適用］をクリックすると設定が有効になります。

ソフトウェアの登録を無効にするには

前ページの手順3の画面で、削除したいソフトウェアを選んでから［削除］をクリックし、［OK］をクリックします。

ジョグダイヤルウィンドウ内のソフトウェアの順番を変えるには

前ページ手順3の画面で、表示されるソフトウェアをドラッグアンドドロップして順番を並びかえ、［適用］をクリックします。

好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPK機能）

起動させたいソフトウェアを割り当てる

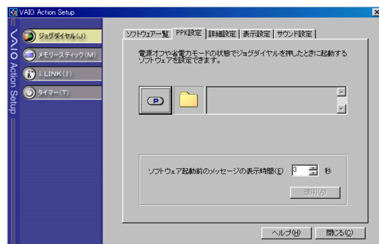
電源を切った状態や省電力動作モード時にジョグダイヤルを押すだけで、好みのソフトウェアを起動したり、スクリプトファイル（インターネットブラウザの起動や電子メールの取り込みなど）を実行することができます（PPK機能）。

1　ジョグダイヤルウィンドウの［setup］をクリックする。

「VAIO Action Setup」が表示されます。

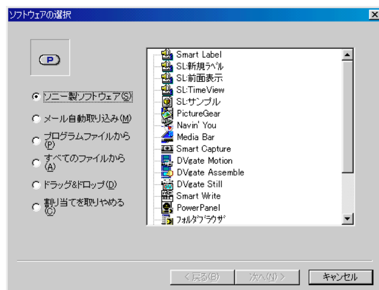
2　［画面左側のジョグダイヤル］をクリックする。

3　［PPK設定］タブをクリックする。



4　をクリックする。

「ソフトウェアの選択」が表示されます。



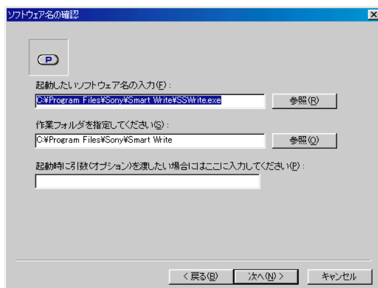
5 画面左側のボタンで設定方法を選び、画面右側の一覧から登録したいソフトウェアを選ぶ。

画面左側のボタンには、以下の設定方法が用意されています。

- ソニー製ソフトウェア：ソニー製のソフトウェアが表示されます。
- メール自動取り込み：メールソフトウェアが表示されます。
- プログラムファイルから：[スタート] メニューの [プログラム] にあるソフトウェアが表示されます。
- すべてのファイルから：本機の内容（ファイルやフォルダ）がツリー表示されます。
- ドラッグ&ドロップ；他のウィンドウから好みのソフトウェアをドラッグアンドドロップ（27ページ）して設定できます。

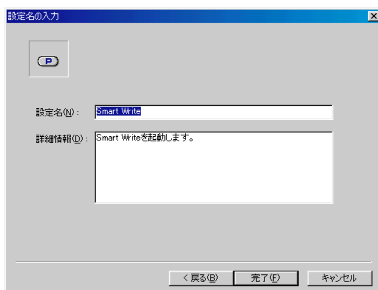
6 [次へ] をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」が表示されます。



7 設定内容を確認し、[次へ] をクリックする。

「設定名の入力」が表示されます。



次のページにつづく

8 「設定名」と「詳細情報」を確認または入力し、［完了］をクリックする。

これで設定は完了です。



手順3（72ページ）の画面にある「ソフトウェア起動前のメッセージの表示時間」で時間を設定すると、ソフトウェアが起動する前に、設定時間だけメッセージダイアログボックスが表示されます。

ソフトウェアの割り当てを変更するには

「起動させたいソフトウェアを割り当てる」（72ページ）の手順を行い、起動したいソフトウェアを割り当て直してください。

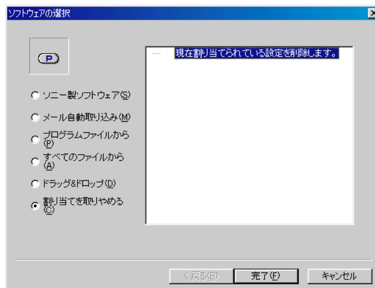
ソフトウェアの割り当てを無効にするには

下記の手順に従って、操作してください。

1「起動させたいソフトウェアを割り当てる」（71ページ）の手順1から4を行う。

2［割り当てを取りやめる］をクリックする。

3 画面右側に表示された［現在割り当てられている設定を削除します。］をクリックし、［完了］をクリックする。



内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する

内蔵タイマーを使うと好きな時刻に好みのソフトウェアを起動したり、スクリプトファイルを実効できます。
本機が省電力動作モードのときでも、タイマー起動できます。
ここでは例として、指定した時刻に自動的に電子メールを確認できるよう設定する方法を説明します。

ご注意

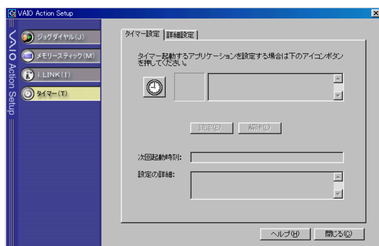
この機能を使う前に、電子メールが使えるように設定しておく必要があります。
詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

1 ジョグダイヤルウィンドウの［setup］をクリックする。

「VAIO Action Setup」が表示されます。

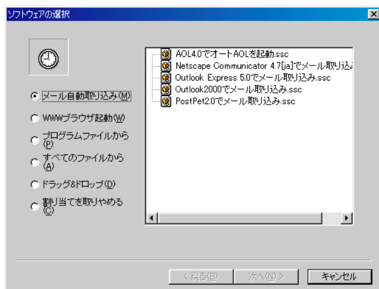
2 画面左側の［タイマー］をクリックする。

画面右側にタイマーの設定画面が表示されます。



3 をクリックする。

「ソフトウェアの選択」が表示されます。



4 画面左側の「メール自動取り込み」を選び、画面右側の一覧から好みのソフトウェアを選び、［次へ］をクリックする。

「プリセットスクリプトの詳細設定」が表示されます。

次のページにつづく

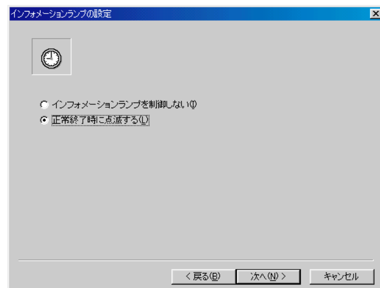
5 ［ダイヤルアップネットワーク接続します］をクリックし、ダイヤルアップ先を指定する。

▼をクリックして、ダイヤルアップ先を選びます。

6 設定内容を確認し、［次へ］をクリックする。

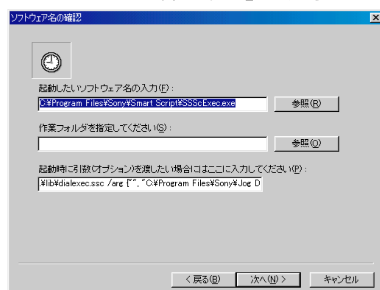
「インフォメーションランプの設定」が表示されます。

本機の（インフォメーション）ランプの設定を行います。



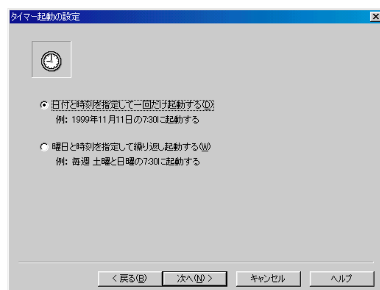
7 ［次へ］をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」が表示されます。



8 設定内容を確認し、［次へ］をクリックする。

「タイマー起動の設定」が表示されます。



「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選んだときは、設定した1回のみ、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選んだときは、毎週決まった時間にタイマーが起動します。

9 ［次へ］をクリックする。

タイマー起動時刻を設定します。

手順8で「日付と時刻を指定して一回だけ起動する」を選んだときは日付と時刻を、「曜日と時刻を指定して繰り返し起動する」を選んだときは曜日と時刻を設定します。

10 ［次へ］をクリックする。

「タイマー起動後の処理」が表示されます。

自動的にソフトウェアが起動したあと、一定時間後に省電力動作モードにしたいときは、［タイマー起動後の処理を設定する。］をクリックして、時間と省電力動作モードを指定します。

11 ［次へ］をクリックする。

「設定名の入力」が表示されます。

12 「設定名」と「詳細情報」を確認または入力し、［完了］をクリックする。

これで設定は完了です。



- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。
- 75ページの手順2の画面で［詳細設定］タブをクリックし、「ソフトウェア起動前のメッセージの表示時間」で時間を設定すると、ソフトウェアが起動する前に、設定時間だけメッセージダイアログボックスが表示されます。

ご注意

動作しているプログラムやデバイスによっては、省電力動作モードに移行できないことがあります。

（インフォメーション）ランプについて

インフォメーションランプは76ページの手順6で選んだ条件に従って点滅します。

点滅しているインフォメーションランプは、本機がシステム スタンバイモードに移行しても消えません。省電力動作モードからの復帰時や本機起動時、またディスプレイ画面右下のタスクトレイ上のジョグダイヤルアイコンをダブルクリックすると消灯します。

タイマー設定を無効にするには

「内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する」の手順2（75ページ）の画面で［解除］をクリックして、［閉じる］をクリックします。

次のページにつづく

ソフトウェアの割り当てを変更するには

以下の手順に従って操作してください。

1 「内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する」の手順4（75ページ）で［割り当てを取りやめる］をクリックする。

2 画面右側に表示された［現在割り当てられている設定を削除します。］をクリックし、［完了］をクリックする。

3 「内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する」（75ページ）の手順2から12を行って、ソフトウェアを割り当てなおす。

メールの自動取り込み以外のソフトウェアを指定するには

「内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する」の手順4（75ページ）で画面左側の「WWWブラウザ起動」、「プログラムファイルから」、「すべてのファイルから」のいずれかを選択して好みのソフトウェアを指定します。

制限事項について

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「Microsoft Outlook Express」などの電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。
このような機能を持った電子メールソフトウェアを使用するときは、「VAIO Action Setup」ソフトウェアのダイヤルアップ機能（スクリプトなど）を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトウェアの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。
「VAIO Action Setup」ソフトウェアの簡易設定では、電子メールソフトウェアなどの起動前にダイヤルアップネットワークに自動的に接続します。そのため、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップできるときは、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップするように設定を変更するようおすすめします。

スクリプト実行中は本機の操作をしないでください

簡易設定によるメール取り込みには「Smart Script」で作成したスクリプトを使用しています。
これらのスクリプトを実行中に本機の操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

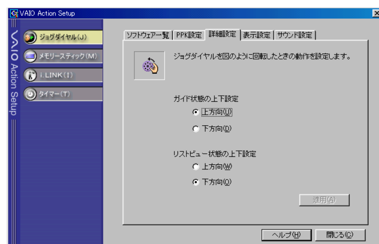
ジョグダイヤルの設定をする

ジョグダイヤルの回転方向や、ジョグダイヤルを操作するときの効果音などを設定できます。

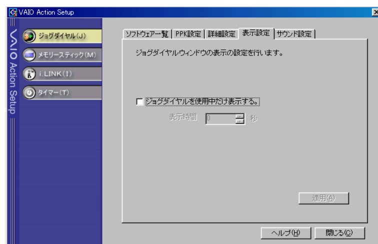
1　ジョグダイヤルウィンドウの［setup］をクリックする。
「VAIO Action Setup」が表示されます。

2　画面左側の［ジョグダイヤル］をクリックする。

- **ジョグダイヤルの回転方向を設定するには**
  ［詳細設定］タブをクリックします。
  ガイド状態およびリストビュー状態のときに、ジョグダイヤルを上方向に回したときのウィンドウの動作を設定します。

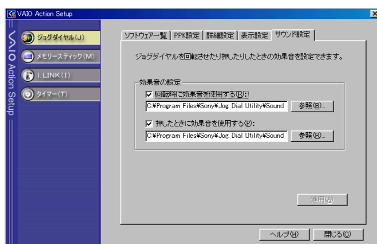


- **一定時間後に自動的にジョグダイヤルウィンドウが閉じるよう設定するには**
  ［表示設定］タブをクリックします。
  「ジョグダイヤルを使用中だけ表示する。」をチェックしてから、「表示時間」を設定します。設定した時間が経過すると、自動的にジョグダイヤルウィンドウが閉じ、ジョグダイヤルを操作すると再び表示されます。
  「ジョグダイヤルを使用中だけ表示する。」のチェックをはずすと、ジョグダイヤルウィンドウは常に表示されます（工場出荷時の設定）。



• ジョグダイヤルを操作するときの効果音を設定するには

［サウンド設定］タブをクリックします。
［参照］ボタンをクリックしてWAVEファイルを選択し、好みの効果音に設定できます。また、自分で録音した音声などのWAVEファイルを効果音に設定することもできます。
さらに、「回転時に／押したときに効果音を使用する」のチェックをはずすことで、効果音が出ないように設定することもできます。



ジョグダイヤルでスクリーンセーバーを操作する

あらかじめジョグダイヤルに登録したパスワードを使って、スクリーンセーバーを解除することができます。

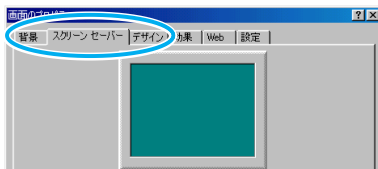
1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロール パネル］をクリックする。**

「コントロール パネル」が表示されます。

2 **［画面］をダブルクリックする。**

「画面のプロパティ」が表示されます。

3 **［スクリーン セーバー］タブをクリックする。**



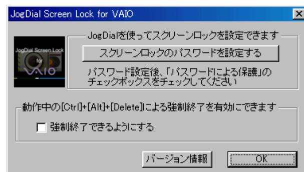
4 **「スクリーン セーバー」ドロップダウンリストから「JogScrLock」を選んでクリックする。**



ここをクリックします。

5 **［設定］をクリックする。**

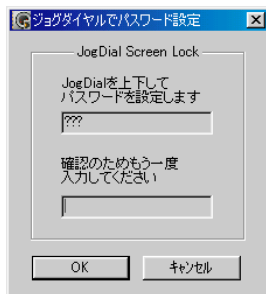
「JogDial Screen Lock for VAIO」が表示されます。



6 **［スクリーンロックのパスワードを設定する］をクリックする。**

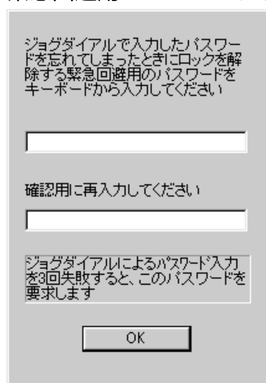
「ジョグダイヤルでパスワード設定」が表示されます。

7 **ジョグダイヤルを押してから、上下に回してパスワードを設定し、ジョグダイヤルを押す。**



確認のために、もう1度同じパスワードを入力してから、ジョグダイヤルを押してください。

緊急回避用のパスワードを入力する画面が表示されます。



8 **キーボードを使ってパスワードを2回入力し、[OK] をクリックする。**

手順4の画面に戻ります。

9 **[パスワードによる保護] をクリックしてチェックし、[OK] をクリックする。**

スクリーンセーバーを解除するには

ジョグダイヤルを回して設定したパスワードを入力し、ジョグダイヤルを押します。間違ったパスワードを3回入力すると、「緊急回避用パスワード」が表示され、キーボードを使ってパスワードを入力して解除できます。

また、前ページの手順5の画面で、「動作中の [Ctrl] + [Alt] + [Delete] による強制終了を有効にする] のチェックボックスにチェックしておくと、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押すことで、スクリーンセーバーを解除できます。

情報をメモして活用する

本機のメモ機能について

本機には、情報を気軽にメモして活用するために、次の4種類のソフトウェアを付属しています。

- Smart Pad：絵や地図のメモをとるときに便利です。
  （83ページ）
- Smart Write：文字、画像、音声でメモをとるときに便利です。
  （86ページ）
- Smart Label：音声と画像でメモをとるときに便利です。（89ページ）
- Smart Publisher：「Smart Pad」や「Smart Write」などで作成したデータをHTML形式に変換して、インターネットへ送信できます。
  （91ページ）

手書きの絵メモをつくる（Smart Pad）

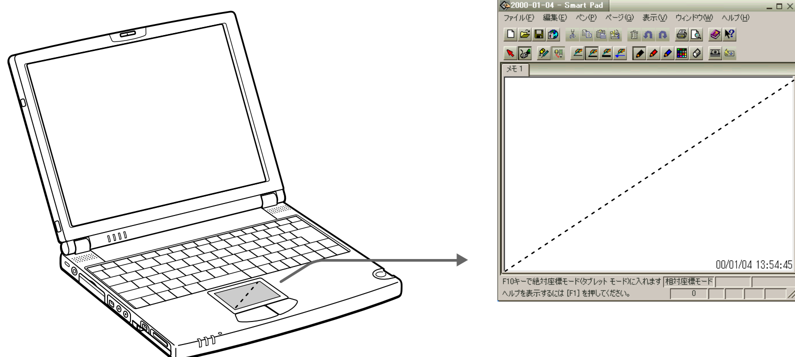
おいしいレストランの場所をちょっとメモしておきたいときなどに、文字では表現しにくい地図などでも簡単にメモしておくことができます。
「Smart Pad」ソフトウェア を使いこなすために、「Smart Pad」のヘルプもあわせてご覧ください。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインタを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［Smart Pad］をクリックする。**
「Smart Pad」ソフトウェアが起動します。

次のページにつづく

2 F10キーを押す。

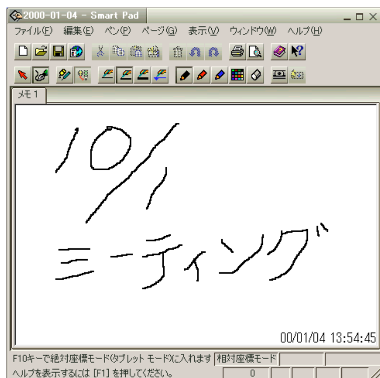
タッチパッドとディスプレイ画面上のメモ帳が下図のように対応するようになります（絶対座標モード）。



ツールバーのボタンをクリックしたり、メニューからコマンドを選んだりできなくなるので、その場合はもう1度F10キーを押して、普通の状態（相対座標モード）に戻してください。

3 タッチパッド上を指でなぞり、図形や文字をゆっくり書く。

指先の動きに合わせて、「Smart Pad」のメモ帳に図形や文字が記入されます。



図形や文字を消すには

図形や文字の全体を1度に消したり、部分的に消すことができます。

- 全体を1度で消す

  ［編集］メニューから［削除］を選びます。

- 部分的に消す

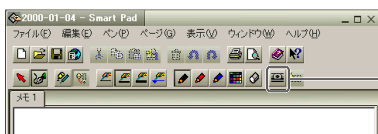
  ［ペン］メニューから［背景色］を選び、消したい部分をなぞります。

静止画でメモをとるには

本機に接続したデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から、静止画を取り込んで、文字や音声と一緒にメモできます。
i.LINK対応機器との接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（108ページ）をご覧ください。

1 「Smart Pad」のツールバーにある をクリックする。

「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。



ここをクリックします。

2 「Smart Pad」のツールバーにある をクリックする。

静止画が挿入されます。



ここをクリックします。

「Smart Pad」を終了するには

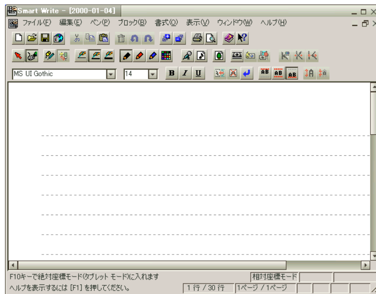
F10キーを押して普通の状態（相対座標モード）にしてから、［ファイル］メニューから［アプリケーションの終了］を選びます。
終了する前に、「Smart Pad」のツールバーにある をクリックすると、作成したメモをデスクトップに貼り付けることもできます。

文字や画像などでメモをとる（Smart Write）

ちょっとしたメモをとりたいときなどに便利です。
「Smart Write」ソフトウェアを使いこなすために、「Smart Write」のヘルプもあわせてご覧ください。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインタを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［Smart Write］をクリックする。**
「Smart Write」ソフトウェアが起動します。

2 **キーボードを使って文字を入力する。**



静止画でメモをとるには

本機に接続したデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から、画像を取り込んで、文字や音声と一緒にメモできます。
i.LINK対応機器との接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（108ページ）をご覧ください。

1 **「Smart Write」のツールバーにある をクリックする。**
「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。



ここをクリックします。

2 **キャプチャモード切替ボタンで［STILL ］（スチルモード）を選ぶ。**



3 **「Smart Write」のツールバーにある をクリックする。**

静止画が挿入されます。



動画でメモをとるには

本機に接続したデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から動画を取り込んで、文字や音声と一緒にメモできます。

1 **「Smart Write」のツールバーにある をクリックする。**

「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。

2 **キャプチャモード切替ボタンで［MOVIE ］（ビデオメールモード）を選ぶ。**

3 **「Smart Write」のツールバーにある をクリックする。**

録画が始まります。

4 **もう1度 をクリックする。**

録画が終了して動画が挿入されます。

動画を再生するには、挿入された動画のイメージ画像をダブルクリックします。

音声でメモをとるには

音声を文字や画像と一緒にメモできます。

1 **「Smart Write」のツールバーにあるをクリックする。**

「録音」画面が表示されます。

2 **［録音］をクリックしてマイクに向かって話す。**

録音が始まります。

3 **［録音終了］をクリックして録音を停止する。**

4 **［OK］をクリックする。**

音声が挿入されます。

音声メモを再生するには、をダブルクリックします。

文字、音声メモ、画像メモを消すには

Back spaceキーまたはDeleteキーを押します。

「Smart Write」を終了するには

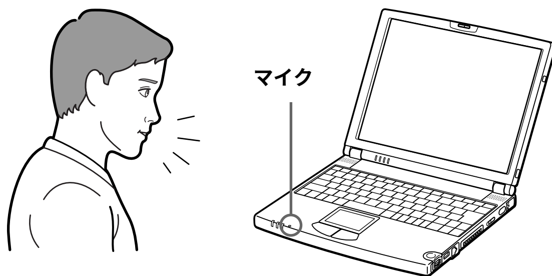
［ファイル］メニューから［アプリケーションの終了］を選びます。

音声でメモをとる（Smart Label）

「Smart Label」ソフトウェアを使うと、電話中にとっさに番号をメモしたいというときなど、相手の言う電話番号を本機の前で復唱するだけで簡単にメモがとれます。
「Smart Label」ソフトウェアで作成したメモ、録音したメモ、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から取り込んだ画像は自動的に「ラベル」として、デスクトップに貼り付けられます。
また、「Time Viewモード」を選択すると、過去に削除したラベルの内容を見たり、未来にラベルを置くこともできます。詳しくは、「Smart Label」のヘルプをご覧ください。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインタを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［Smart Label］をクリックする。**
「Smart Label」ソフトウェアが起動し、ディスプレイ画面右下にが表示されます。

2 **ディスプレイ画面右下のを右クリックして、［新規ラベルの追加］にポインタを合わせ、［サウンドラベル］を選んでクリックする。**
ラベルが表示され、音声が録音されます。本機のマイクに向かって話してください。設定により、最大で1,000秒間の録音ができます。



3 **録音を終了するときは、をクリックする。**
録音の終了したラベルは、ディスプレイ画面の好きな場所に貼り付けることができます。



メモを再生するには

ラベルをクリックし、をクリックします。
録音したメモが再生されます。再生を一時停止するにはを、停止するにはをクリックします。

画像を取り込むには

本機に接続したデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK機器から画像をを取り込めます。
i.LINK対応機器との接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（108ページ）をご覧ください。

1 **ディスプレイ画面右下のを右クリックし、メニューの「Smart Capture を表示」をクリックする。**
「Smart Capture」ソフトウェアが起動します。

2 **［CAPTURE］をクリックする。**
新しいラベルが作成され、画像が取り込まれます。

取り込んだ画像を標準の大きさで表示するには
i.LINK対応機器から取り込んだ画像は、ラベルの大きさに合わせて縮小して表示されます。標準の大きさで表示するには、表示するラベル右上のをクリックしてポップアップメニューから［画像］を選び、さらにサブメニューから［オリジナルのサイズに設定］を選びます。

「Smart Capture」を終了するには
ディスプレイ画面右下のを右クリックし、ポップアップメニューの［Smart Capture を表示］をクリックしてチェックをはずします。

メモを消すには

消したいラベル右上のをクリックし、［ラベル削除］をクリックします。



「Smart Label」のラベルに文字や画像データを追加することもできます。
詳しくは、「Smart Label」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

作成したデータをインターネットに送信する（Smart Publisher）

「Smart Pad」や「Smart Write」ソフトウェアで作成したデータをインターネットに送信し、ホームページのコンテンツとして使うことができます。
インターネットに送信する前に、インターネットに接続する設定が完了している必要があります。インターネットへの接続については、「インターネットを楽しむ」（66ページ）、または別冊の「はじめにお読みください」および「はじめてのインターネット！」をご覧ください。
また、「Smart Publisher」ソフトウェアを使いこなすために、「Smart Publisher」のヘルプもあわせてご覧ください。

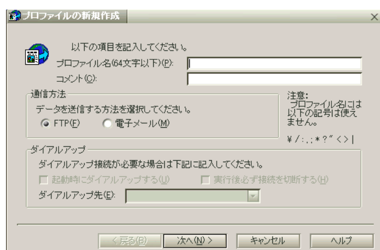
送信方法を設定するには

インターネットへの送信方法を設定します。一度設定をすると、次からすぐにデータを送信することができます（93ページ）。

1 **[スタート]ボタンをクリックし、[VAIO]にポインタを合わせ、[ステーショナリ]を選び、[Smart Publisher]をクリックする。**
「Smart Publisher」ソフトウェアが起動し、「プロファイル設定」が表示されます。



2 **[新規]をクリックする。**
「プロファイルの新規作成」が表示されます。

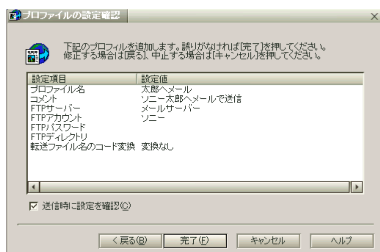


3 必要な情報を入力し、[次へ] をクリックする。

プロファイル名、コメントを入力し、データ通信方法をFTPと電子メールから選びます。
データ送信の際にダイヤルアップ接続が必要な場合には、接続先を選びます。
[次へ] をクリックすると、通信方法で選んだ方法の設定画面が表示されます。

4 必要な情報を入力し、[次へ] をクリックする。

引き続き画面の指示に従って操作します。前の画面を見るには[戻る] をクリックします。最後に「プロファイルの設定確認」が表示されます。



5 [完了] をクリックする。

「プロファイル一覧」に作成したプロファイルが表示されます。



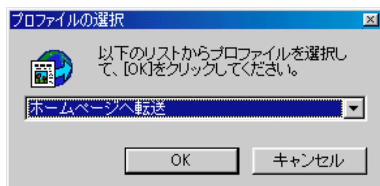
6 [閉じる] をクリックする。

データを送信するには

あらかじめ、インターネットの送信方法を設定しておいてください（91ページ）。

1 「Smart Pad」や「Smart Write」ソフトウェアを起動し、ツールバーにあるをクリックする。

「プロファイルの選択」が表示されます。



2 プロファイルを選んで、[OK] をクリックする。

選んだプロファイルに従い、送信されます。

「Smart Pad」や「Smart Write」以外のファイルを送信するには

送信したいファイルを右クリックし、ポップアップメニューの［送る］にポインタを合わせ、さらにサブメニューから［Smart Publisher］をクリックします。

VAIOを使いこなす

他の機器とデータをやりとりする

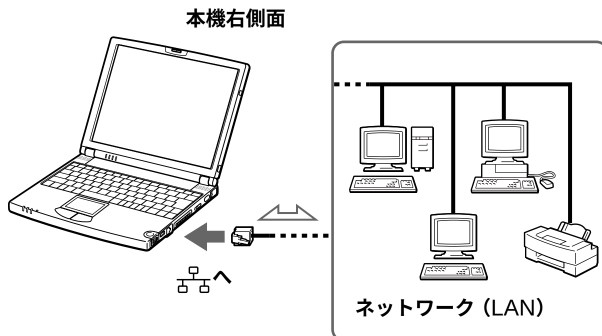
本機で作成したデータを他機に送ったり、他機で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。自宅や職場などで複数のパソコンをお使いのときは、作成したデータをやりとりすることで、本機をより活用いただけます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。
例えば、外出するときに、必要なデータだけを職場のデスクトップパソコンから本機に読み込んで、外出先でデータを修正します。職場に戻ってから、本機で修正したデータをデスクトップパソコンに戻して、データを加工したり保存したりできます。

ここでは、データ交換で使われている、以下の方法について説明します。

- ネットワークを使ってやりとりする
- “メモリースティック”を使ってやりとりする
- 「Smart Connect」を使ってやりとりする
- 赤外線（IrDA）を使ってやりとりする
- シリアルケーブルを使ってやりとりする

ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする

本機右側面のネットワークコネクタと職場などのネットワーク（LAN）を直接接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
10BASE-Tと100BASE-TXタイプのネットワークに接続できます。
ネットワークに接続するために必要な周辺機器や設定については、職場などのネットワークのシステム管理担当者にご相談ください。



ご注意

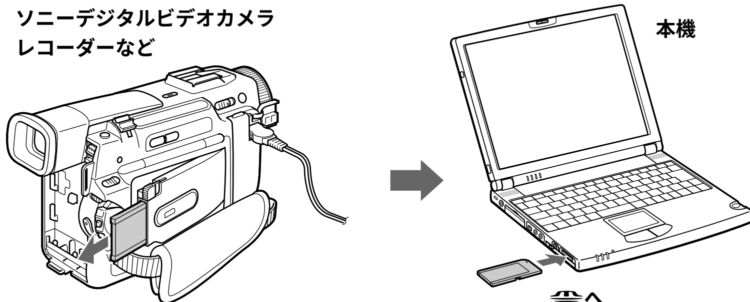
工場出荷時の設定では、ネットワークに接続できない設定になっています。ネットワークに接続するには、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「デバイスを一時的に使用できないように設定する」の手順3で［イーサネット］をチェックしてください。
「イーサネット」を使用できるように設定すると、Windowsの起動や省電力モードからの復帰に多少時間がかかります。

“メモリースティック”を使ってデータのやりとりをする

ソニーデジタルビデオカメラレコーダーやデジタルスチルカメラなどの“メモリースティック”対応機器で“メモリースティック”に動画や静止画を取り込み、その“メモリースティック”を本機のメモリースティックスロットに差し込むことにより、画像データファイルとして取り込むことができます。“メモリースティック”の使いかたについて詳しくは、「“メモリースティック”を使う」（57ページ）をご覧ください。

ご注意

接続のしかたや画像の取り込みかたについて詳しくは、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

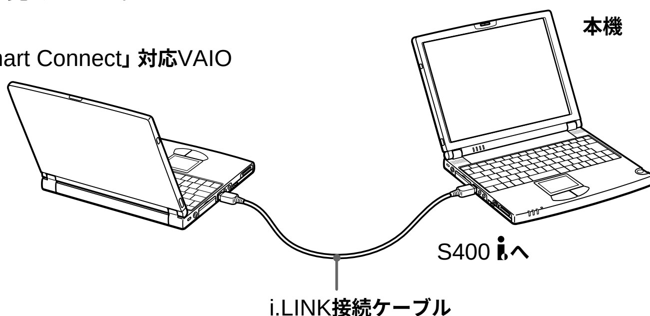




本機に付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアと組み合わせることにより“メモリースティック”対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどで撮った静止画を手軽に閲覧することができます。詳しくは、「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

「Smart Connect」を使ってデータをやりとりする

「Smart Connect」に対応したVAIOと本機をi.LINKケーブルで接続し、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。また、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。詳しくは、「Smart Connect」の取扱説明書およびオンラインマニュアルをご覧ください。

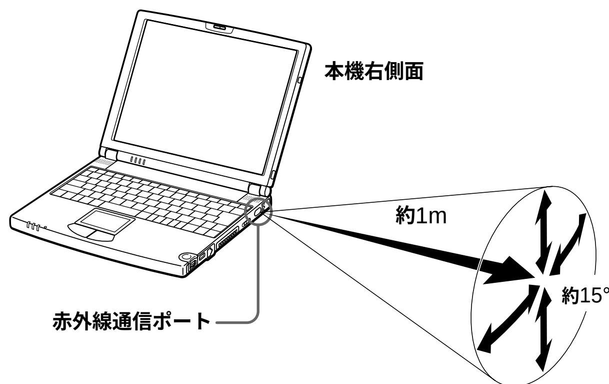




i.LINKについて詳しくは、「i.LINKとは？」（109ページ）をご覧ください。

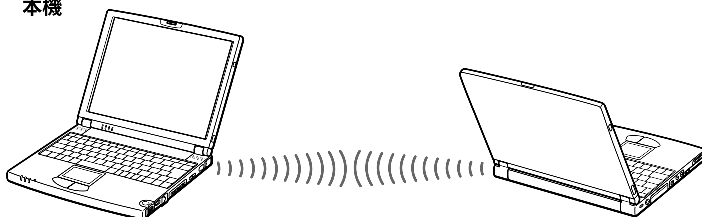
赤外線（IrDA）でデータをやりとりする

本機右側面の赤外線通信ポートを使って、IrDA対応の赤外線通信ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつながずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けます。
パソコンだけでなく、赤外線通信ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。



次のページにつづく

他のノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように配置してください。





赤外線通信ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプタを取り付けると、本機と赤外線でデータをやりとりできるようになるものもあります。
詳しくは、お持ちの機器の販売店にご相談ください。

赤外線でデータをやりとりするには

実際にデータをやりとりするには、本機に付属の以下のソフトウェアを使います。

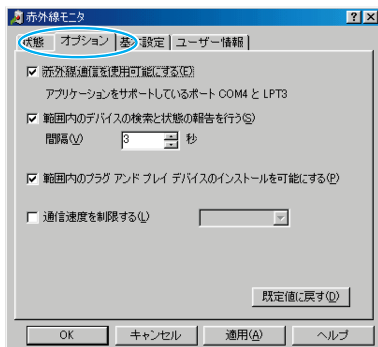
- 「PictureGear」：デジタルスチルカメラなどから画像データを取り込む。
- Windowsの赤外線転送：パソコン間で文書などのデータをやりとりする。

工場出荷時の設定では、赤外線でデータをやりとりすることができません。次の操作を行って、赤外線通信が使えるように設定してください。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **「コントロールパネル」の中の［赤外線モニタ］をダブルクリックする。**

3 ［オプション］タブをクリックし、「赤外線通信を使用可能にする」をチェックする。



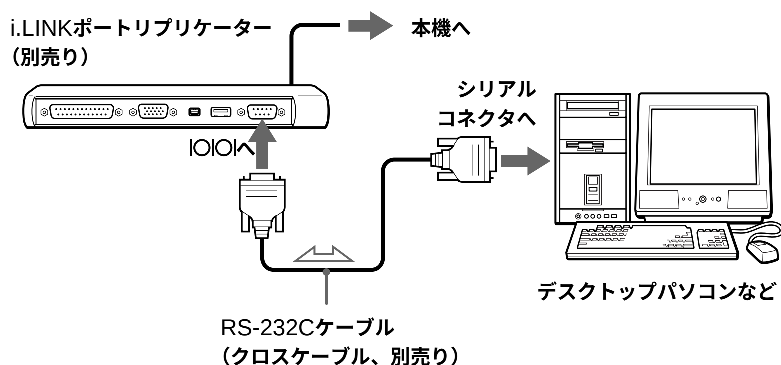
4 ［OK］をクリックする。

ご注意

- 上記の手順3で「赤外線通信を使用可能にする」をチェックすると、一定時間ごとに通信相手を探すため、バッテリの消耗が早まります。バッテリの消耗を防ぐため、データのやりとりが終わったあとは、「赤外線通信を使用可能にする」のチェックボックスをクリックしてチェックをはずしておくことをおすすめします。
- 赤外線通信の設定を変更するときは、上記の手順3で変更するか、ディスプレイ画面右下のをクリックし、「赤外線モニタ」を起動して設定してください。を右クリックして赤外線通信の設定を変更しないでください。
- データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは、以下の点にご注意ください。
  - 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
  - 赤外線通信ポートは真正面で向き合うように配置する。
  - 赤外線通信ポート間に物を置かない。
  - 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。

シリアルケーブルを使ってデータをやりとりする

本機とデスクトップパソコンなどを接続ケーブルを使って接続して、データをやりとりできます。赤外線通信に比べて通信に多少時間はかかりますが、シリアルコネクタのある機器とならRS-232Cケーブル1本でデータをやりとりできます。
別売りのi.LINKポートリプリケーターPCGA-UPR5を使って接続します。
i.LINKポートリプリケーターの使いかたについて詳しくは、「i.LINK ポートリプリケーターを使って拡張する」（116ページ）をご覧ください。



ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器および周辺機器の電源を切り、コンセントからACアダプタや電源コードを抜いてから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- RS-232Cケーブルは、クロスケーブルをお使いください。ストレートケーブルでつないでも、データをやりとりできません。
- RS-232Cケーブルを購入されるときは、コネクタの形状に充分ご注意ください。
- 実際にデータをやりとりするには、それぞれのパソコンにシリアルケーブルでの接続をサポートしているソフトウェアがインストールされている必要があります。

音楽CD／ビデオCDを再生する

本機に付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDの再生を楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます（一部ソフトウェアを除きます）。下記の流れに従って操作してください。
本機で音楽CDなどを再生するには、CD-ROMドライブPCGA-CD51（PCG-Z505Nのみに付属）またはCD-RドライブPCGA-CDR51、CD-RWドライブPCGA-CDRW51が必要です。接続のしかたや使いかたについて詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」（61ページ）および、お使いのドライブに付属の取扱説明書をご覧ください。

PCGA-CD5で音楽CDを聞くには

別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5をお使いの場合、本機の内蔵スピーカーから音は出ません。音楽CDを聞くには、以下の手順に従って、設定をしてください。

1 ヘッドホンや外部スピーカーなどをCD-ROMドライブにつなぐ。
2「コントロール パネル」内の［マルチメディア］をダブルクリックする。
3［音楽CD］タブをクリックし、「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」のチェックボックスをクリックしてチェックをはずす。

画面上の［AV再生の設定］をダブルクリックする

「Media Bar」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示に従って操作する

画面の指示に従って必要な項目を設定します。

再生する

設定が終了すると、「Media Bar Launcher」操作画面が表示されます。「Media Bar Launcher」の使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。



一度上記の流れに従って設定を終了すると、［AV再生の設定］アイコンは表示されず、2回目以降はすぐに再生を楽しむことができます。
再度設定を行いたい場合は、［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Media Bar］から［AV再生の設定］をクリックします。

拡張編

内蔵モデムを電話回線につなぐ

本機には、データ／ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機と電話回線をつなぐと、インターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。
内蔵モデム（V.90、K56flex対応）の通信速度は、データ受信時最大56kbps、データ送信時最大33.6kbpsです。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。
なお、電話回線のコンセントにはいくつかの種類があります。詳しくは、「電話回線のコンセントの種類」（107ページ）をご覧ください。

ご注意

使用可能な電話回線は一般電話回線です。PBX回線には接続しないでください。故障の原因となります。

1 お使いの電話回線のダイヤル方法を確認する。

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなく、ダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。

2 モデムのダイヤル方法を設定する。

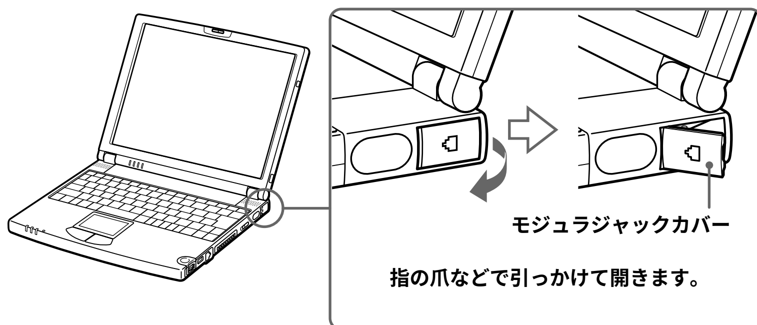
① [スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインタを合わせ、[コントロール パネル] をクリックする。

②「コントロール パネル」の中の [モデム] をダブルクリックする。

③ [ダイヤルのプロパティ] をクリックする。

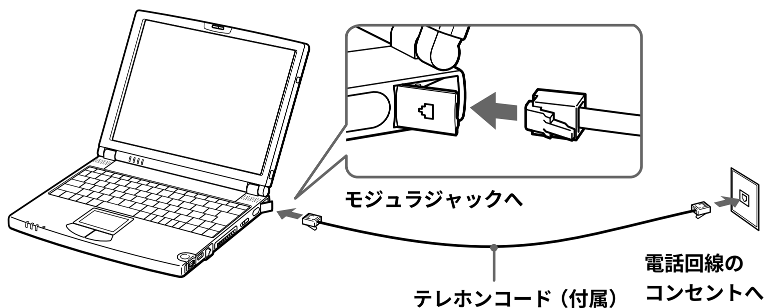
④ [ダイヤル方法] からお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて [トーン] または [パルス] を選択する。

3 **モジュラジャックカバーを開ける。**

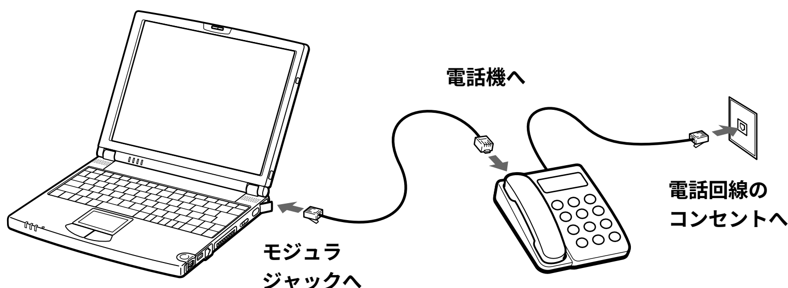


4 **電話回線につなぐ。**

モジュラジャックは本機の後ろ側から、モジュラプラグのつめがカチッとロックするまで斜めに差し込みます。



モジュラジャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。



次のページにつづく

ご注意

- 本機と電話回線のコンセントの間に、分配器などの機器を接続しないでください。
- 接続したあとに、使用する電話、ファックス、通信などの設定を、ソフトウェアで設定する必要があります。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

電話回線についてのご注意

- 使用可能な回線は一般電話回線です。PBX回線には接続しないでください。故障の原因となります。
- 本機の内蔵モデムは、通信相手が応答しない場合、60秒で電話を切るように設定されています。30秒以内に電話を切るようにモデムの設定を変更することもできますが、この場合、交換機の接続遅延時間によっては接続できないことがあります。設定を変更する場合でも、30秒以上に設定するようおすすめします。
- 契約したプロバイダがV.90またはK56flexに対応している場合、最大56kbpsで通信が可能です（受信時）。ただし、電話回線の状態によって、通信速度は変化します。V.90、K56flexは自動的に選択されます。
- モデムのプロパティからは国選択ができますが、本機を使用する場合は必ず、日本国モード（工場出荷時のまま）でご使用ください。他国のモードをご使用になると、電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。ご自宅、外出先のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
モジュラ型	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型	テレホンモジュラーアダプターTL-30
直付け型ローゼット[1)]	モジュラーローゼットTL-32CRなど
埋め込み型[2)]	テレホンモジュラージャックコンセント TL-31

1) 直付けタイプからモジュラジャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

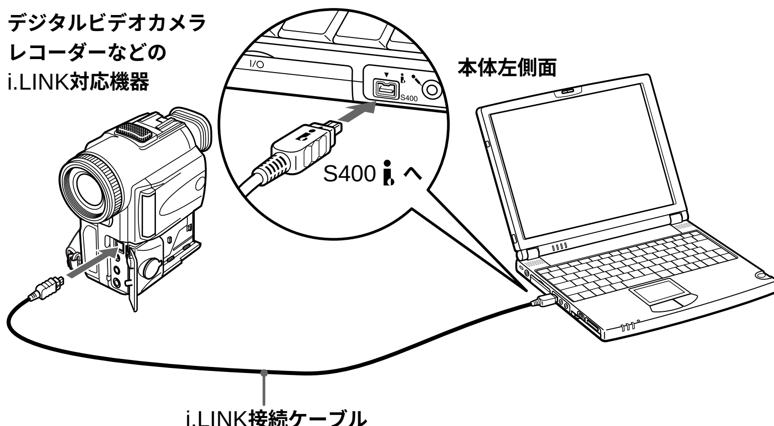
2) 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となる場合があります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

i.LINK対応機器をつなぐ

本機左側面のS400 (i.LINK) コネクタを使ってデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器に接続し、本機に画像をデジタルのまま取り込むことができます。





- i.LINK対応機器として、DV端子を備えたソニー製のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することができます。
- i.LINK対応機器をつないだときに、自動的に好みのソフトウェアが起動するように設定することができます。詳しくは、「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

ご注意

- デジタルビデオカメラレコーダーは、本機および別売りのポートリプリケーターのどちらか一方にのみつなぐことができます。デジタルビデオカメラレコーダーをどちらか一方につないだときは、もう一方のi.LINKコネクタには何もつながないでください。
- 本機のi.LINKコネクタは、i.LINK対応機器に電源を供給しません。i.LINKコネクタからの電源供給が必要な一部の機器は、正しく使用できないことがあります。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属している「DVgate」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」(112ページ) および「本機で操作できるi.LINK対応機器」(112ページ) をご覧ください。

i.LINKとは？

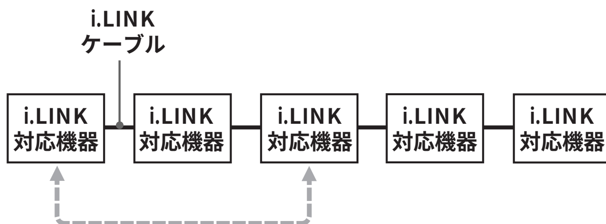
i.LINKは、i.LINKコネクタを持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。
また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。



- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
  IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
  この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
  このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
  また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

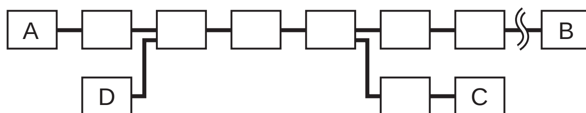
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。



2つの機器の間に他の機器がつながれていても、
操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

- i.LINKコネクタを3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINKの規格上、i.LINK対応機器は本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。（i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。）
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

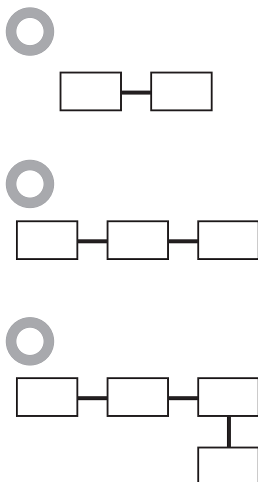


A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、
いずれの経路も最大17台の機器を接続できます
（最大16ホップ）。

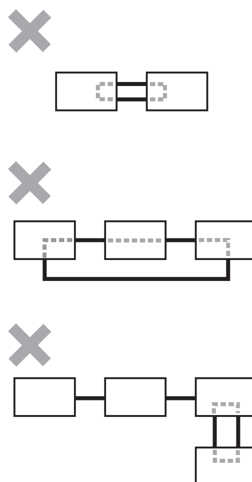
接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

正しい接続例



ループの接続例



接続についてのご注意

- パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINKコネクタの周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、ソニー製i.LINKケーブル「VMC-IL Series」（別売り）をお使いください。

主なケーブル

- VMC-IL4415A（4ピン←→4ピン、1.5 m）
- VMC-IL4615A（4ピン←→6ピン、1.5 m）

ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機で操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。
（2000年1月10日現在）

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

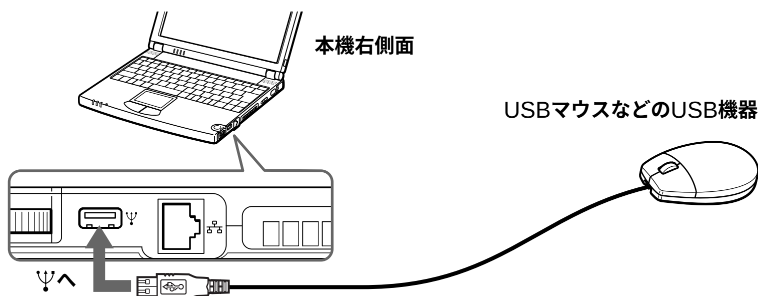
  * 別売りのドッキングステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルもあります。取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。
- ソニーが1999年12月末日までに日本国内で発売したDV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバータおよびDigital 8 デジタルビデオカメラレコーダーを含む。ツーリストモデルは除く。）

ご注意

本機はDTLAコピー・プロテクション技術（109ページ）に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピー・プロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することはできません。

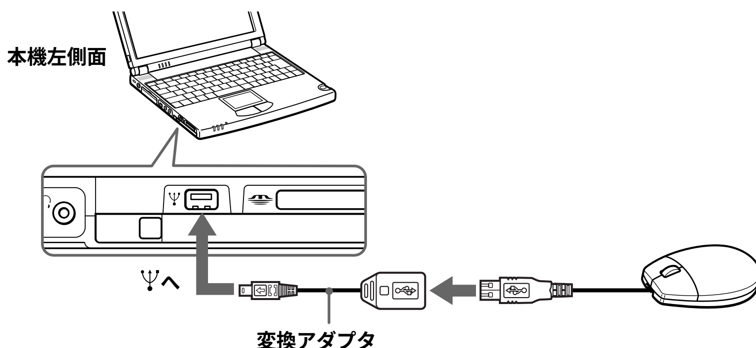
USB機器をつなぐ

本機のUSBコネクタを使って、USBマウスなどのUSB機器をつなぐことができます。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。





- 別売りのソニー製USBマウスPCGA-UMS1を接続できます。本機にはあらかじめ、PCGA-UMS1用のドライバがインストールされているので、接続するだけでご使用になれます。
- 付属のフロッピーディスクドライブなど他のUSB機器とあわせてご使用になるときは、付属の変換アダプタをつなぎ、本機左側面の Ψ(専用ミニUSB) コネクタへつないでください。



ご注意

- PCGA-UMS1以外のマウスは本機で使用できないものがあります。詳しくは、マウスの販売元または販売店にご確認ください。
- PS/2マウスは使用できません。
- 別売りのi.LINKポートリプリケーターPCGA-UPR5を使用しているときは、本機の専用ミニUSBコネクタは使えません。本機右側面のUSBコネクタまたはi.LINKポートリプリケーターのUSBコネクタをお使いください。

外部ディスプレイをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、別売りのディスプレイアダプターPCGA-DA5を使って、本機に外部ディスプレイを接続します。

ご注意

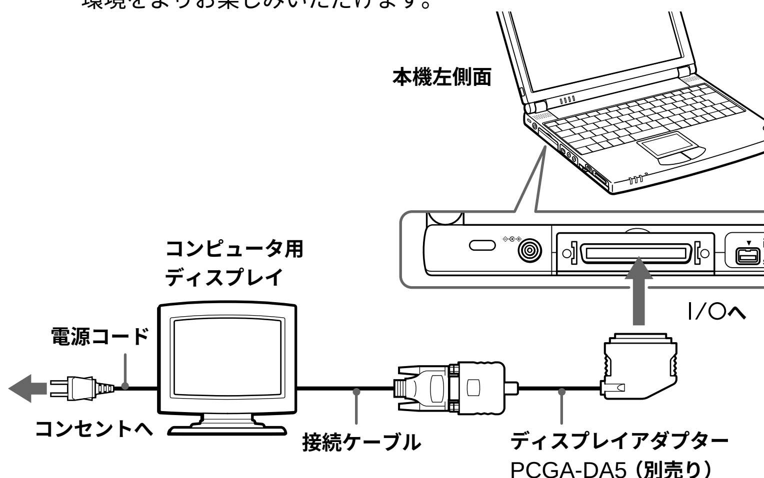
- 本機と接続する機器の電源を切り、コンセントからACアダプタや電源コードを抜いてから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- コンピュータ用ディスプレイやプロジェクタの種類によっては、本機の液晶ディスプレイと同時表示できないものもあります。



- 本機のディスプレイと接続した外部ディスプレイの表示を切り換えられます。
詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「表示するディスプレイを選ぶ」または「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（42ページ）をご覧ください。
- 別売りのi.LINKポートリプリケーターを使うと、ディスプレイアダプタを使用せずに、外部ディスプレイをつなぐことができます。詳しくは、「i.LINKポートリプリケーターを使って拡張する」（116ページ）をご覧ください。

コンピュータ用ディスプレイをつなぐには

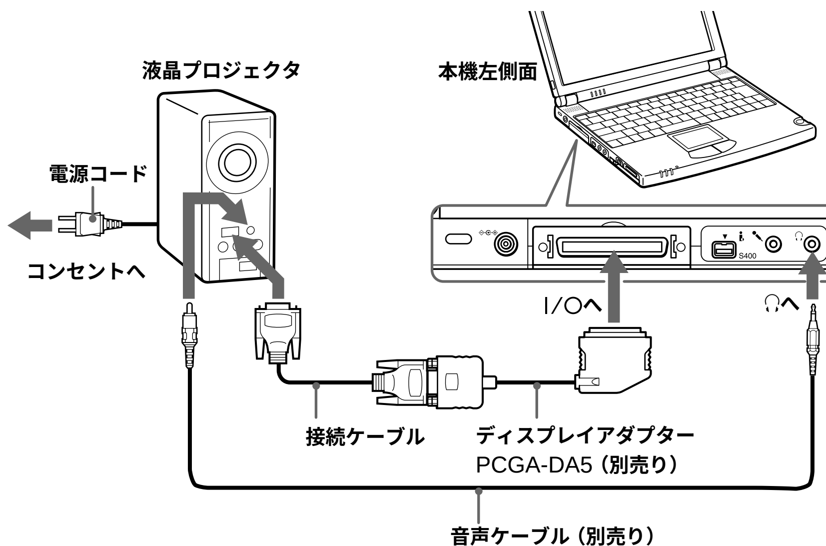
スピーカーなどが内蔵されていない通常のディスプレイにつなぐときは、ディスプレイの他に外部アクティブスピーカーなどをつなぐことで、AV環境をよりお楽しみいただけます。



液晶プロジェクタをつなぐには

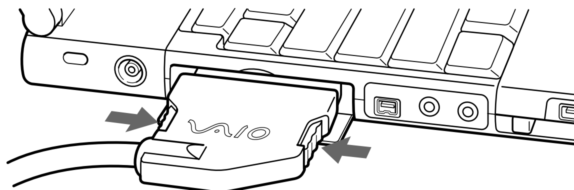
液晶プロジェクタを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。

接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクタの取扱説明書をご覧ください。



ディスプレイアダプタを取りはずすには

本機の電源を切ってから、コネクタの両端をつまんでディスプレイアダプタをはずします。



i.LINKポートリプリケーターを使って拡張する

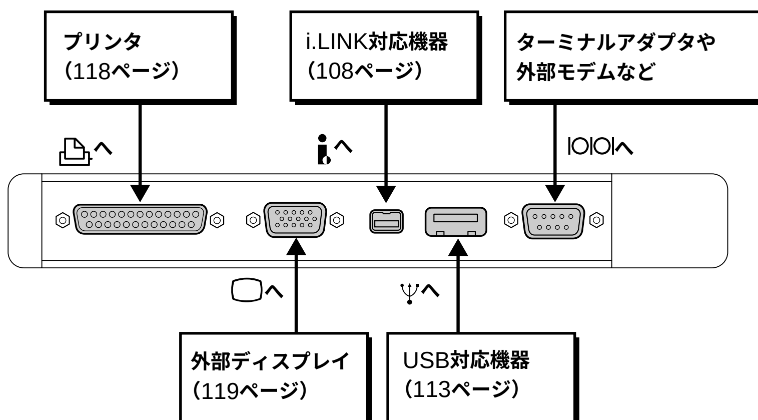
別売りのi.LINKポートリプリケーターPCGA-UPR5を使うと、プリンタや外部ディスプレイなどの周辺機器を本機につなぐことができます。

ご注意

- 別売りのポートリプリケーターPCGA-PR5は使用できません。
- i.LINKポートリプリケーターを使用しているときは、本機の専用ミニUSBコネクタは使用できません。本機右側面のUSBコネクタをお使いください。

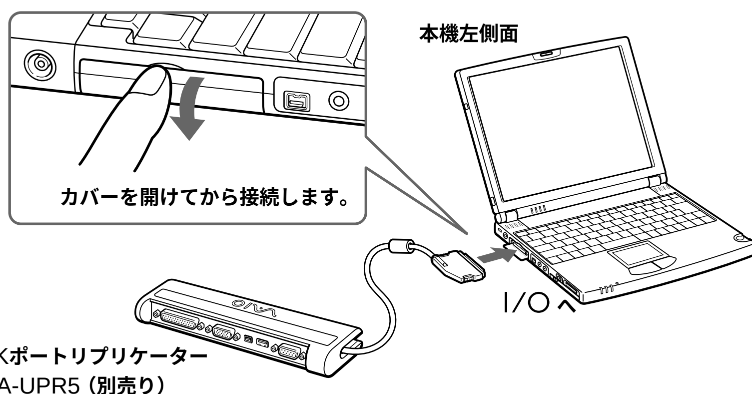
i.LINKポートリプリケーターを使った主な接続例

接続は、本機の電源を切ってから行ってください。接続のしかたについては、（　）内のページをご覧ください。



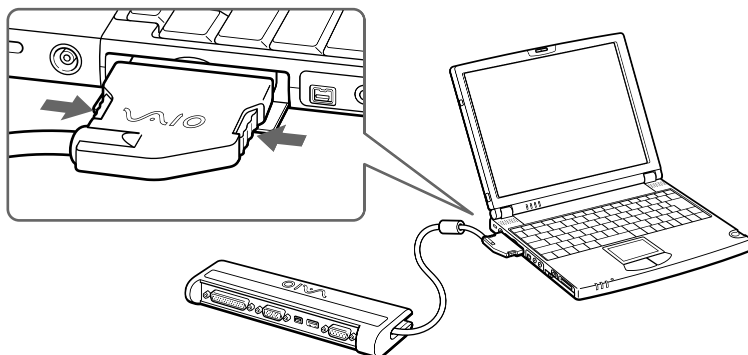
i.LINKポートリプリケーターを取り付けるには

本機の電源を切ってから行ってください。



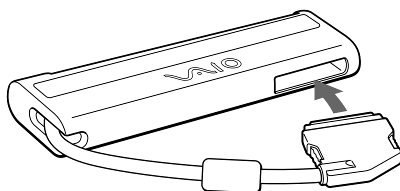
i.LINKポートリプリケーターを取りはずすには

本機の電源を切ってから、コネクタの両端をつまんでケーブルをはずします。



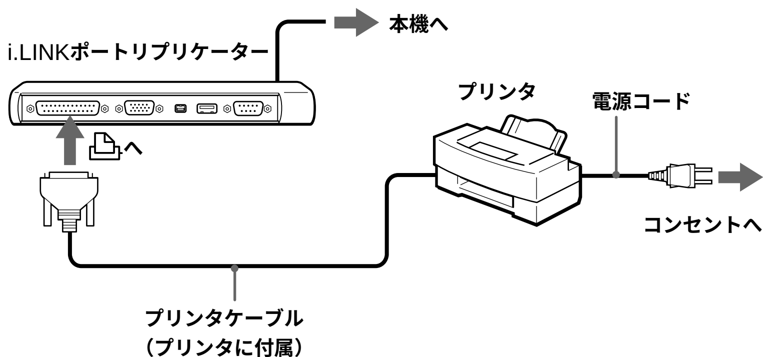
i.LINKポートリプリケーターを持ち運ぶときは

取りはずしたあとは、ケーブルをi.LINKポートリプリケーター後面にはめ込むと、ケーブルが邪魔になりません。



プリンタをつなぐ

Windows 98に対応しているプリンタを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。



ご注意

- 本機とプリンタの電源を切り、コンセントからACアダプタや電源コードを抜いてから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 98に対応していないプリンタを本機につなぐと、正常に動作しないことがあります。

プリンタを使用するには

プリンタを使用するには、次の準備が必要です。

- プリンタに付属のドライバを本機にインストールする。
  詳しくは、プリンタの取扱説明書をご覧ください。
- プリンタポートを設定する。
  詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「プリンタポートの設定を変更する」をご覧ください。

外部ディスプレイをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、本機に外部ディスプレイを接続します。

ご注意

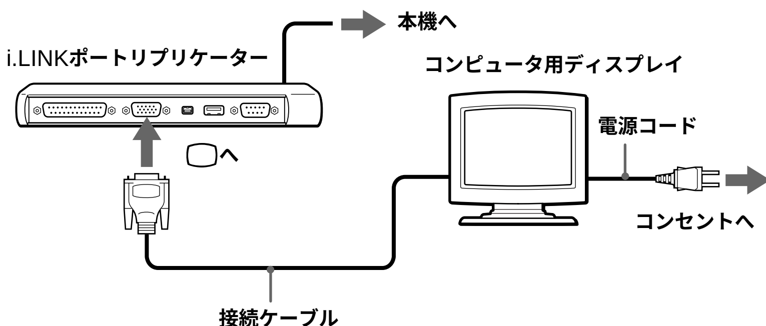
- 本機と接続する機器の電源を切り、コンセントからACアダプタや電源コードを抜いてから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- コンピュータ用ディスプレイやプロジェクタの種類によっては、本機の液晶ディスプレイと同時表示できないものもあります。



- 本機のディスプレイと接続した外部ディスプレイの表示を切り替えられます。詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「表示するディスプレイを選ぶ」または「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（42ページ）をご覧ください。
- i.LINKポートリプリケーターを使わずに、別売りのディスプレイアダプターPCGA-DA5を使用してつなぐこともできます。詳しくは、「外部ディスプレイをつなぐ」（114ページ）をご覧ください。

コンピュータ用ディスプレイをつなぐには

スピーカーなどが内蔵されていない通常のディスプレイにつなぐときは、ディスプレイの他に外部アクティブスピーカーなどをつなぐことで、AV環境をよりお楽しみいただけます。

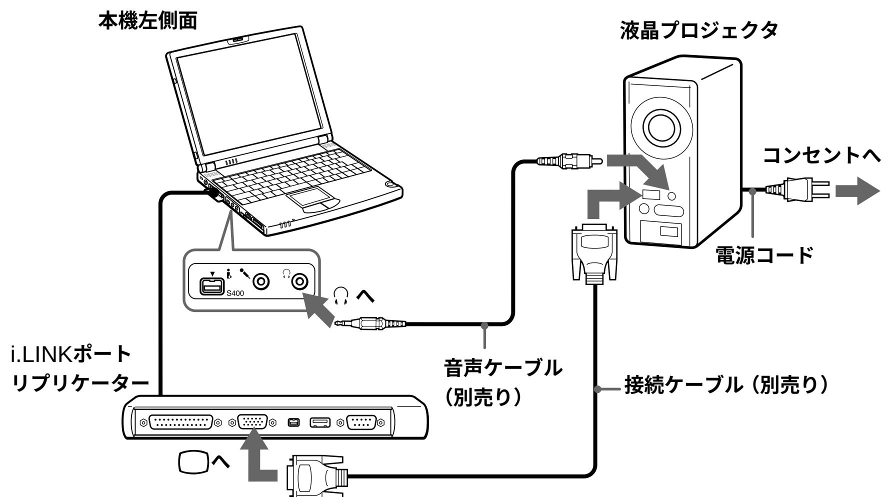


周辺機器を接続する

液晶プロジェクタをつなぐには

液晶プロジェクタを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。

接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクタの取扱説明書をご覧ください。



メモリを増設する

メモリを増設すると、データの処理速度や、複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- コンピュータ内部はとても精密にできています。そのため、メモリの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。破損した場合は有償修理となります。
  メモリ増設に関するご相談やご質問は、販売店またはVAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- 別売りのソニー製メモリーモジュール以外では、正常に認識されなかったり、Windowsの動作が不安定になるものがあります。別売りのソニー製メモリーモジュール以外をお使いになる場合には、販売店またはメモリモジュールの製造メーカーにご相談ください。

メモリモジュールを取り付ける

本機には拡張用メモリスロットが1つあり、別売りのメモリモジュールを取り付けることにより、PCG-Z505NRは最大256Mバイト、PCG-Z505Nは最大192Mバイトまでメモリを増設できます。

メモリモジュール取り扱い上のご注意

- 静電気でメモリモジュールが破損しないように、メモリモジュールを取り扱うときは、次のことをお守りください。
  - メモリを増設するときは、静電気の起こりやすい場所(カーペットの上など)では作業しないようにしてください。
  - 静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
  - メモリモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

次のページにつづく

1 **本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。**

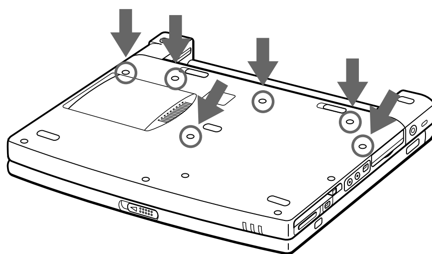
バッテリも取りはずしてください。

2 **しばらくしてから本機裏面のネジをはずす。**

プラスドライバーで本機裏面のネジ（6か所）を取りはずしてください。

取りはずすネジ（6か所）の上には印（•）がついています。

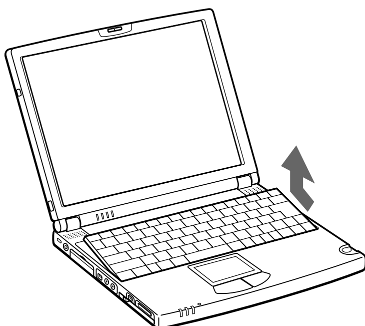
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをするおそれがあります。電源を切って約1時間ほどおいてから作業を行ってください。



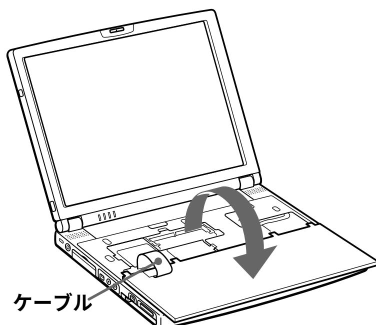
- ドライバーはネジのサイズにあったもの（精密ドライバーなど）をお使いください。
- 指定以外のネジをはずしたり、ゆるめたりしないでください。本機の故障の原因となるおそれがあります。

3 本機のキーボードを裏返す。

① ディスプレイパネルを開き、キーボードを液晶ディスプレイ側に少しずらして持ち上げる。



② キーボードを液晶ディスプレイ側から持ち上げて、キーボード全体を裏返し、タッチパッドのある手前のスペースにゆっくりのせる。



キーボードを裏返すときに、キーボードのケーブルは無理に引っぱりすぎないようにしてください。ケーブルが断線してしまうおそれがあります。

4 メモリモジュールを梱包から取り出す。

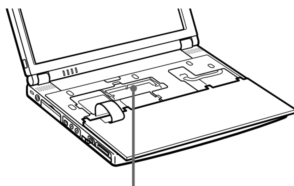
本体の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを静電気防止袋から取り出します。

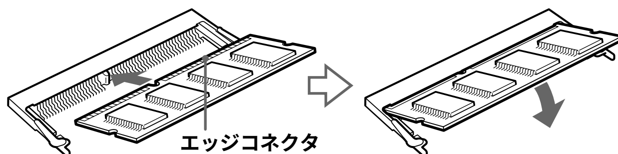
次のページにつづく

5 **メモリモジュールを取り付ける。**

① メモリモジュールのエッジコネクタ部分を下にむけ、切り欠き部分をスロットの溝にあわせて、しっかりと差し込む。

② カチッと音がするまで、矢印の方向にメモリモジュールを倒す。メモリモジュールの両端が固定されます。



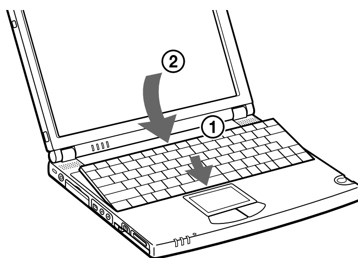


ご注意

メモリモジュール以外の基板には触れないようご注意ください。

6 **キーボードを戻す。**

ケーブルが断線しないようにキーボードをゆっくり元の位置に戻し、本体に押し込んでください。



ご注意

キーボードの下にある放熱板がずれると、キーボードが正しい位置に戻せないことがあります。そのときはキーボードを無理に押し込まずに、再度キーボードを裏返して放熱板の位置を確認してください。

7 **ディスプレイパネルを閉じ、本機裏面のネジを締める。**

プラスドライバーで本機裏面のネジ（6か所）をしっかりと締めてください。

メモリモジュールを取りはずすには

1 **本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。**

バッテリも取りはずしてください。

2 **「メモリモジュールを取り付ける」の手順**2（122**ページ）と手順**3（123**ページ）を行う。**

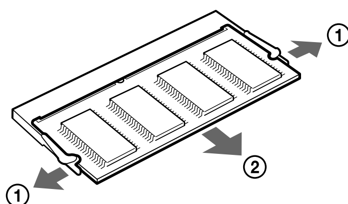
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをするおそれがあります。電源を切って約1時間ほどおいてから作業を行ってください。

3 **メモリモジュールを取りはずす。**

本体の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、行ってください。

① メモリモジュールを固定しているタブを、注意しながら同時に押し広げる。

② メモリモジュールを矢印の方向に引き抜く。



4 **「メモリモジュールを取り付ける」の手順**6**と**7（124**ページ）を行う。**

メモリの増設を確認する

1 **本機の電源を入れる。**

2 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

3 **［システム情報］タブをクリックして、「システム メモリ」の項目が増設後のメモリ容量になっていることを確認する。**

メモリの容量の表示が正しければ、メモリの増設は完了しました。
メモリの容量が増えていないときは、本機の電源を切って、もう1度増設の手順を繰り返してください。



PCカードを使う

本機には、PC CardタイプIとタイプIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また、本機のPCカードスロットは16ビット CardおよびCard Busに対応しています（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません）。

ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによってはドライバを最新のものにすることによって、不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバを入手してお使いください。

PCカードを取り付ける

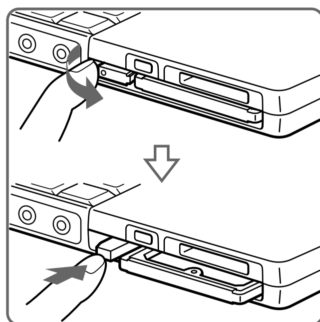
PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

1 PCカードスロットプロテクタを取り出す。

PCカードスロットを保護するために、PCカードスロットプロテクタが装着されています。PCカードを挿入する前に、プロテクタを取り出す必要があります。

① イジェクトボタンを起こしてから押す。

プロテクタが出ます。

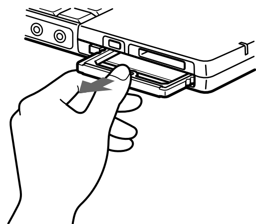




次のページにつづく

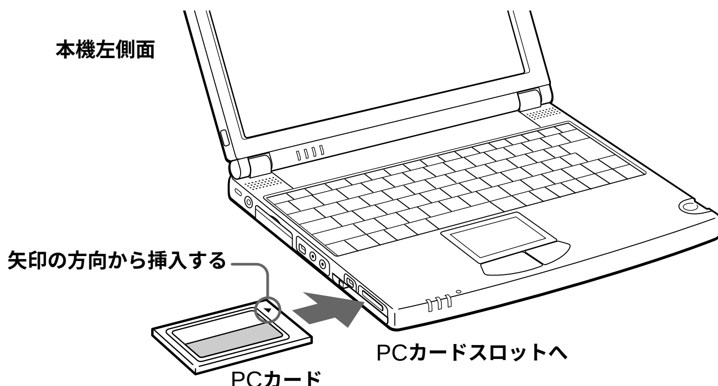
本体を拡張する

② **プロテクタの端を持って、スロットから引き抜く。**



2 カードをスロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。
イジェクトボタンは、いったん引いてから液晶ディスプレイ方向に倒して収納してください。
カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- PCカードによっては、「Sony Notebook Setup」を起動し、使用しないデバイスを一時的に無効にする必要のある場合があります。詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「デバイスを一時的に使用できないように設定する」をご覧ください。
- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバをお使いください。
- 「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］タブでPCカードに「！」が付いている場合は、ドライバを削除し、再度インストールしてください。

PCカードを取り出すには

ご注意

本機の電源が入っているときにカードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているときは、手順1〜4の操作は不要です。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロール パネル］をクリックする。**

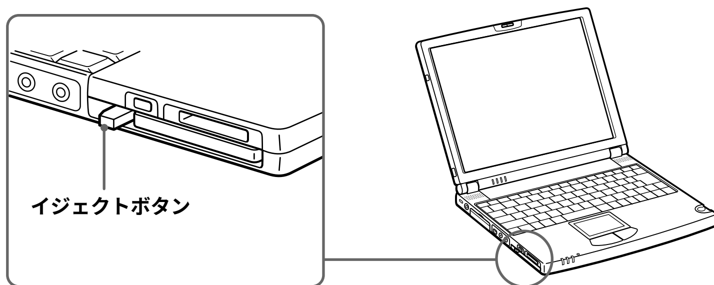
2 **［PC カード］をダブルクリックする。**

3 **リストから取り出したいPCカードをクリックし、次に［停止］ボタンを順にクリックする。**

4 **「このデバイスは安全に取りはずせます。」と表示されたら［OK］ボタンをクリックする。**

5 **PCカードスロットのイジェクトボタンを押す。**

カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



カードを引き抜いたあとは、スロットを保護するために、必ずPCカードスロットプロテクタを挿入してください。

困ったときは

トラブルを解決するには

トラブルが発生したら、あわてずに下記の流れに従ってください。
また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

「主なトラブルとその解決方法」（133ページ）をチェックする

お使いにコンピュータの症状に合うものがないか確認してください。また、ソフトウェアについてのトラブルは、各ソフトウェアに付属の取扱説明書またはヘルプも合わせてご覧ください。Windows 98の使いかたについては、［スタート］メニューの［ヘルプ］をクリックして、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

「Q&A Search」を使う

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、お客様からのお問い合わせが多い質問と回答やQ&A集を掲載しています。詳しくは、「Q&A Searchを使ってトラブルを解決する」（150ページ）をご覧ください。

それでも具合が悪いときは

VAIOカスタマーリンクまたはお買い上げ店にご相談ください。

主なトラブルとその解決方法

ここでは、本機の主なトラブルとその解決方法を説明します。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」（24ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で本機の電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

電源が入らない／切れない、起動しない

電源が入らない。

電源が入らないときの状況によって対処方法が異なります。ACアダプタやバッテリが正しく接続されていることを確認した上で、以下のいずれかの操作を行ってください。

→ **プログラム動作中に異常が発生したので電源を切った場合**

プログラムの異常で、電源を制御するコントローラが停止している可能性があります。クリップなどの細い棒で本機底面のリセットスイッチを押してから、電源を入れ直してください。シャープペンシルの芯など

折れやすいものは、本機の故障の原因となりますので使用しないでください。それでも電源が入らない場合は、ACアダプタとバッテリをはずして1分ほど待ってから再度取り付け直し、電源を入れてください。

→ **寒い戸外から暖かい屋内に持ち込んだり、または湿度の高い場所で使用する場合**

本機内部に結露が生じている可能性があります。その場合は、1時間ほど待ってから電源を入れ直してください。また、湿度の高い場所（80%以上）でのご使用は、本機の故障の原因となりますのでおやめください。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

- 新しくインストールしたプログラムやデータ、その操作などを確認してください。
- システムのBIOSやデバイスドライバが、Windows 98に適したものであるか確認してください。
- 周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows 98は、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。また、周辺機器のデバイスドライバによっては、OSの強制的なプログラムの終了に対応していないものもあります。

→ **「電源を切る」（24ページ）の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合**

まず、Enterキーを押します。それでも電源が切れない場合は、本機のパワースイッチを4秒以上◁の方向にずらしたままにして、⏻（パワー）ランプが消灯するか確認してください。

→ **［スタート］メニューの［Windowsの終了］を選んでも、「Windowsの終了」画面が表示されない場合**

Altキーを押しながらF4キーを数回押して「Windowsの終了」画面を表示させ、［コンピュータの電源を切れる状態にする］を選び［はい］をクリックしてください。

Altキーを押しながらF4キーを数回押しても「Windowsの終了」画面が表示されない場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、「プログラムの強制終了」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックしてください。

それでも電源が切れない場合は、本機のパワースイッチを4秒以上◁の方向にずらしたままにして、⏻（パワー）ランプが消灯するか確認してください。

→ **本機のパワースイッチを4秒以上◁の方向にずらしたままにしても、電源が切れない場合**

クリップなどの細い棒で本機底面のリセットスイッチを押してください。

シャープペンシルの芯など折れやすいものは、本機の故障の原因となりますので使用しないでください。

→ **上記の操作を行っても電源が切れない場合は、ACアダプタとバッテリをはずしてください。**

これらの操作を行うと、作成中のデータが破壊されるおそれがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safe modeで起動することがあります。その場合は、Windowsのデスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」（24ページ）の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。

省電力動作モードに移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。再起動できない場合は、パワースイッチを4秒以上◁の方向にずらしたままにして電源を切ってください。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち|上げられない。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押す。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ 再起動してもこのメッセージが表示されWindowsが起動しない場合は以下の項目を確認してください。

→ フロッピーディスクドライブに起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してからCtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリCDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。
詳しくは、「リカバリCDで本機を再セットアップする」（154ページ）
および「パーティションサイズを変更する」（157ページ）をご覧ください。

電源を入れると「C:¥WINDOWS>_」と表示されたまま止まり、Windowsが起動しない。

→「exit」と入力してEnterキーを押してください。Windows 98が起動します。本機の電源を切るときは「電源を切る」（24ページ）の手順に従ってください。
「exit」と入力せずに本機の電源を切ってしまうと、次回電源を入れた際もMS-DOSモードで起動します。

電源を入れると「System Disable」と表示され、Windowsが起動しない。

→ パワーオンパスワードを3回間違えて入力すると、「System Disable」と表示されWindowsが起動しません。
本機のパワースイッチを4秒以上◁の方向にずらしたままにして、⏻（パワー）ランプが消灯するか確認してください。その後、再度本機の電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
パスワードを入力する際は、🔓(Num Lock）ランプや🔓(Caps Lock）ランプが点灯していないか確認してください。点灯してる場合は、Num LkまたはCaps Lkキーを押してランプを消灯させてから入力してください。

Safe Mode起動時に「SDS.DRV can not load」と表示される。

→ 故障ではありません。［OK］をクリックしてください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

CD-ROMから起動できない。

→ 以下の本機専用ドライブ以外のドライブからは、本機を起動できません。

- CD-ROMドライブ PCGA-CD51（PCG-Z505Nのみに付属）またはPCGA-CD5
- CD-Rドライブ PCGA-CDR51
- CD-RWドライブ PCGA-CDRW51

なお、ドライブをお使いになるときは、各ドライブに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

液晶ディスプレイ、外部ディスプレイがおかしい

液晶ディスプレイに何も表示されない。

→ LCD/Video スタンバイ状態になっている。キーボードのいずれかのキーを押す。

→ 外部ディスプレイに表示が切り替えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを何回か押す。詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（42ページ）をご覧ください。

液晶ディスプレイが暗い。

→ Fnキーを押しながら、F5キーを押すと、液晶ディスプレイの明るさを調節できます。詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（42ページ）をご覧ください。

外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくは、ディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

ウィンドウを最大表示しても、ディスプレイ画面の端に隙間が空く。

→ 自動的に隠すよう設定したアプリケーションバーが、同じ場所に複数存在している可能性があります。PowerPanelツールバーをドラッグして移動させてください。

文字が入力できない、表示されない

日本語が入力できない。

→ 「文字を入力する」（44ページ）をご覧ください。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ U、I、O、J、K、L、M、@などの文字が入力できない場合は、Num Lock（ナムロック）が有効になっている場合があります。
(Num Lock) ランプが点灯していないか確認してください。点灯している場合は、Num Lkキーを押してランプを消灯させてから入力してください。

→ コントロールパネル内［システム］アイコンをダブルクリックし、［デバイスマネージャ］タブでキーボードの項目が「106日本語（A01）キーボード（Ctrl+英数）」に設定されている確認してください。異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

全角の「〜」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（48ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「〜」が選ばれるまで、スペースキーを押します。

URL**で使われる半角の「~」（チルダ）が入力できない。**

→ MS-IMEツールバーで「半角英数」（49ページ）または「直接入力」を選び、Shiftキーを押しながら キーを押します。

入力した文字が表示されない。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない。（ディスプレイ上では薄い色の画面になります。）画面のどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。

タッチパッドを使いこなせない、ポインタが動かない

指がタッチパッドの端まできてしまい、これ以上動かせない。

→ 指をいったんタッチパッドから離し、中央に戻す。

指がタッチパッドに触れただけで、クリックしてしまう。

→ タッチパッドの設定を変更してください。詳しくは、PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「タッピング機能を無効にする」をご覧ください。

画面上のポインタが動かない。

→「バッテリ低下」のメッセージが表示されている場合は、Enterキーを押して、画面を閉じる。

→ ⊞キーを押して［スタート］メニューを表示させ、↑キーまたは↓キーを押して［Windowsの終了］を選んでEnterキーを押し、［電源を切れる状態にする］を選んでEnterキーを押す。

→ 上記の操作で電源が切れないときは、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。

→ 以上の操作でも何も起こらないときは、パワースイッチを4秒以上◁の方向にずらして電源を切る。

→ CD-ROMを再生しているときなどにポインタが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、CD-ROMの再生を強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押して本機を再起動する。

ハードディスクを初期化してしまった／起動できない

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。
詳しくは、「リカバリCDで本機を再セットアップする」（154ページ）をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

フロッピーディスクが取り出せない／保存できない

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 「フロッピーディスクを取り出すには」（54ページ）をご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「書き込み禁止」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（54ページ）

「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（54ページ）

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容が画面で表示されている。画面表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

CD-ROMドライブから起動できない

→ 以下の本機専用ドライブ以外のドライブからは、本機を起動できません。

- CD-ROMドライブ PCGA-CD51（PCG-Z505Nのみに付属）または PCGA-CD5
- CD-Rドライブ PCGA-CDR51
- CD-RWドライブ PCGA-CDRW51

なお、ドライブをお使いになるときは、各ドライブに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

“メモリースティック”を取り出すとエラーメッセージが出る

“メモリースティック”を取り出したらディスプレイ画面が青くなり、「ドライブS:のディスク読み取りエラー　シリアル番号xxxx-xxxxのディスクをドライブS:に入れてください」と表示される。

→ 再度“メモリースティック”を差し込み、Enterキーを押す。使用中のアプリケーションの処理が終了するまで待ってから、“メモリースティック”を取り出す。

→ 上記操作中に、「使用中のドライブのEJECT要求を受け取りました。
取り出し操作を実行しますか？」というメッセージが表示されたら、［OK］をクリックする。

ご注意

“メモリースティック”を取り出すときは、メモリースティックランプが点灯していないことを確認する。

DV機器／i.LINK機器が使えない

DV機器が使用できない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。

→ DV機器の電源が入っているか、またはケーブルが正しく接続されているか確認する。

→ i.LINKでは、複数の機器を接続して動くように設計されていますが、機器との組み合わせによっては、動作が不安定になることがあります。接続されている機器すべての電源をいったん切り、なるべく不要な機器を取りはずして、ケーブルの接続を確認した後、再度電源を入れてください。

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。

→ いったんi.LINKケーブルを抜き、再度接続し直してください。

i.LINKポートリプリケーター（別売り）のi.LINKコネクタに接続した機器が正しく動作しない。

→ 本体のi.LINKコネクタをお使いください。

「DVgate」ソフトウェアを使用してテープに録画中、「DV機器への録画に失敗しました。DV機器の電源、接続の状態を確認して操作をやり直してください」というメッセージが表示される。

→ DV機器の電源やケーブルが正しく接続されているかどうか確認してください。また、続けて録画を行っていると、機器が正しく接続されていても、録画できなくなる場合があります。その場合、すべてのソフトウェアを終了してから本機を再起動してください。
さらに快適な環境でご使用いただくためには、メモリの増設をおすすめします。

「DVgate」ソフトウェアを使用中にフレーム落ちが生じる。

→ 使用状況によってはフレーム落ちが生じることがあります。
その場合は、メモリの増設をしてください。

USB機器が動作しない

専用ミニUSBコネクタに接続したUSB機器が動作しない。

→ 別売りのi.LINKポートリプリケーターPCGA-UPR5を使用しているときは、本機の専用ミニUSBコネクタは使えません。本機右側面のUSBコネクタまたは、i.LINKポートリプリケーターのUSBコネクタをお使いください。

プリンタで印刷できない

→ プリンタポートのモード設定を変更する。PCG-Z505N Seriesのオンラインマニュアルの「プリンタポートの設定を変更する」をご覧ください。

PCカードが使えない

→ Windows 98対応でないPCカードは使えないことがあります。

→ 以前使用できたPCカードが使用できなくなった場合は、コントロールパネル内［システム］アイコンをダブルクリックし、［デバイスマネージャ］タブから動作しないPCカードのプロパティ画面を表示させ、［ドライバ］タブの［ドライバの更新］をクリックして、ドライバの更新を行ってください。

→ ドライバの更新を行っても使用できない場合は、以下の操作を行ってください。

1 本機を再起動してSONYのロゴマークが表示されている間に、Ctrlキーを押し続ける。
「Microsoft Windows Setup Menu」が表示されます。

2 「Safe mode」を選択して、Safe modeを起動する。

3 コントロールパネル内［システム］アイコンをダブルクリックし、［デバイスマネージャ］タブから工場出荷時と異なったデバイスを削除する。

4 ［スタート］メニューの［Windowsの終了］を選んで本機の電源を切る。

5 本機の電源を入れてSONYのロゴマークが表示されている間に、F2キーを押す。

BIOSのセットアップメニューが表示されます。

6 Escキーを押し、↓キーで「Get Default Values」を選び、Enterキーを2回押す。

7 ↓キーで「Exit（Save Changes）」を選んで、Enterキーを2回押す。

Windowsが正しく起動することを確認します。Windows起動中に新しいハードウェアを検出し、必要なドライバを組み込む場合がありますが、表示される画面の指示に従って操作してください。

8 PCカードを取り付ける。

自動的に必要なドライバが組み込まれ、「ピポ」という音がすると完了です。正しく認識されない場合は、本機の電源を切り、PCカードを取り付けてから電源を入れ直してください。

電話やインターネットに接続できない

内蔵モデムからダイヤルできない。

→ お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。（104ページ）

→ 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。（105ページ）

→ テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラジャックに差し込む。（105ページ）

→ 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。

→ モデムがWindowsに正しく認識されているか確認します。

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロール パネル］をクリックする。

2 ［モデム］アイコンをダブルクリックする。

はじめてモデムを使用するときは、「所在地情報」の入力をしてください。

3 ［検出結果］タブをクリックする。

4 ［COM2］を選択し、［詳細情報］をクリックする。

「詳細情報...」ダイアログボックスが表示されたら、モデムは正しく認識されています。

困ったときは

次のページにつづく

正しく認識されていないときは

次の点を確認してください。

→ COMポートのリソース（IRQなど）が他のデバイスと競合していないか確認します。「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］で、デバイスのアイコンに「！」がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。

モデムはダイヤルしているが、接続できない。

→ うまく接続できないときは、以下の項目を確認してください。

ケーブルの接続を確認する

「発信音が聞こえません」や「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」といったメッセージが表示されたときは、モジュラケーブルの接続を確認します。本体側のモジュラジャックと壁側のモジュラジャックの接続を確認します。

予備のケーブルがあれば、ケーブルを交換して試してみます。

接続速度を遅くしてみる

電話回線の状態がよくないときには、接続速度を遅くするとうまく接続できる場合があります。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロール パネル］をクリックする。**

2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**

3 ［Connexant Soft56 Data, Fax PCI Modem］**を選択し、［プロパティ］をクリックする。**

4 **［最高速度］に遅めの数値（標準は**115200**）を選ぶ。**

5 **少しずつ数値を小さくして試す。**

ダイヤルトーンを検出しないようにする

ダイヤルトーン（受話器を上げたときの「ツー」という音）の検出に失敗してダイヤルできないときは、ダイヤルトーンを検出しないようにします。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**

3 **［全般］タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、［プロパティ］をクリックする。**

4 **［接続］タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックボックスをクリックしてチェックをはずす。**

5 ［OK］**をクリックする。**

6 **「モデムのプロパティ」の［閉じる］をクリックする。**

接続中の動作が長く続くとき

接続中の動作が長く続き、接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して、接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

ダイヤルアップネットワークやプロトコルの設定を確認する

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください。」や「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してから、やり直してみてください。」といったメッセージが表示されるときは、プロバイダやネットワークに接続するための設定を確認します。
設定などに問題がなかった場合は、ダイヤルアップネットワークとプロトコルを組み込み直してください。

ダイヤルアップネットワークの設定の確認

1［マイ コンピュータ］をダブルクリックし、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。

2 接続先のアイコンを右クリックし、［プロパティ］をクリックする。

3 契約しているプロバイダから提供された資料に従って設定を確認する。
特に、次の点を重点的に確認してください。

- ［全般］タブの［電話番号］の設定（ISDN用の回線が別番号になっていることもあります）
- ［サーバーの種類］タブの設定
- ［サーバーの種類］タブの［TCP/IP設定］ボタンでの設定

プロトコルの設定の確認

1［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロール パネル］をクリックする。

2［ネットワーク］アイコンをダブルクリックする。

3 契約しているプロバイダから提供された資料に従って設定を確認する。
特に、次の点を重点的に確認してください。

- ［現在のネットワークコンポーネント］に組み込まれているコンポーネント
- 各コンポーネントのプロパティの設定

携帯電話に接続できない。

→「ダイヤルのプロパティ」で所在地情報を確認する。市外局番が入力されていないときは、「000」や「999」など実在しない番号を入力する。

COMポートの設定を変えたい。

→ 本機では、標準状態でCOM1～COM4までが使われています。
新しい周辺機器（PCカード等）を接続するとCOM5以降が割り当てられることがありますが、ソフトウェアによってはCOM5以降をサポートしていないものがあり、正しく周辺機器等を使用できない場合があります。このような場合には、割り当てられているCOMポートの設定を変更します。
COMポートの設定を変更するためには、次の（1）、（2）の方法があります。

（1）使用しないデバイスを無効にする

使用しないデバイスを無効に設定し、そのデバイスが使っていたCOMポートをほかの周辺機器が使用できるよう解放します。

1［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。

2［使用デバイス］タブをクリックし、以下のデバイスのうち使わないもののチェックボックスをクリックしてチェックをはずす。

- ［シリアル通信ポート］
- ［赤外線通信ポート］

3 本機の電源を切り、周辺機器を接続してから周辺機器と本機の電源を入れる。

空いているCOMポートが周辺機器に割り当てられます。正しく設定されているか、［デバイスマネージャ］で確認してください。

（2）COM3を空ける

COM3を空け、増設する周辺機器にCOM3を割り当てます。

1［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。

2［プロパティ］タブをクリックし、［高度な設定］をクリックする。

3［赤外線通信］タブをクリックする。

4［I/Oアドレス1］を「3E8h-3EFh」以外のリソース競合がないアドレスに変更する。

5［OK］をクリックする。

ご注意

この設定を行うと、ソフトウェアによっては、まれに赤外線通信が正常に動作しないことがあります。

インターネットに接続できない。

→ ディスプレイ画面上の［インターネットに接続］アイコンをダブルクリックして設定を確認する。

→ インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」および「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

最高の通信速度で通信できない。

→ 回線が混み合っている場合や回線の品質が悪い場合は、エラーが発生しないよう自動的に通信速度を落とします。

システム ハイバネーションモードに移行できない。

下記の操作を行ってください。

→ モデム通信や赤外線通信、プリンタユーティリティなどが使用中の場合は、終了するか一時的に使用不可にする。

→ Fnキーを押しながらF12を押してシステム ハイバネーションモードに移行できない場合は、「コントロール パネル」内の［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックして、「Hotkey Utility」が表示されるか確認してください。表示されない場合は、PowerPanelツールバーのをクリックしてください。

→ それでもシステム ハイバネーションモードに移行できない場合は、下記の手順に従って「Save2dsk.bin」ファイルがあるか確認してください。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［エクスプローラ］をクリックする。

2 ［表示］メニューの［フォルダ オプション］をクリックする。

3 ［表示］タブをクリックし、「登録されているファイルの拡張子は表示しない」のチェックボックスをクリックしてチェックをはずし、次に「すべてのファイルを表示する」をチェックして［OK］をクリックする。

C:ドライブに「Save2dsk.bin」が表示されます。

「Save2dsk.bin」は、システム ハイバネーションモードに移行するための大切なファイルです。決して削除はしないでください。削除してしまった場合はリカバリCDで本機を再セットアップすることをおすすめします。

スピーカーから音が出ない／マイクで録音できない

スピーカーから音が出ない。

→ 本機の内蔵スピーカーが「切」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（42ページ）をご覧ください。

→ 本機の内蔵スピーカーの音量が最小になっている。Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、↑または→キーを押して音量を上げる。
詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（42ページ）をご覧ください。

→ コネクタにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。

Fnキーを押しながらF3キーを押すと「Sound Disable」と表示される。

→ 「システムのプロパティ」画面の［デバイスマネージャ］タブをクリックしてから、サウンドデバイスを使用できるように設定する。

内蔵マイクで音声を録音すると雑音が入る。

→ ハードディスクのアクセス音などが録音されてしまうためで、故障ではありません。

「Smart Label」ソフトウェアで音声が録音できない。

→ 録音デバイスとしてマイクが選択されていない可能性があります。
下記の手順に従って選択してください。

1 ディスプレイ画面右下の をダブルクリックする。

2［オプション］メニューから［オプション］を選ぶ。

3「音量の調整」の［録音］と「表示するコントロール」の「Microphone」をチェックし、［OK］をクリックする。

4「Microphone」の「選択」がチェックされていることを確認する。
チェックされていないときは、クリックしてチェックします。

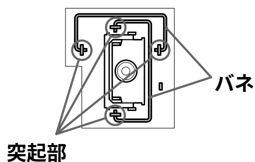
キートップがはずれた

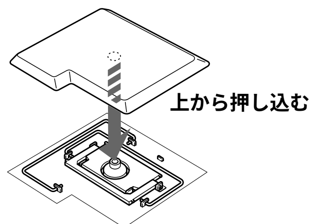
→ Enterキーとスペースキーは以下の図に従って取り付けてください。
その他のキートップがはずれたときは、元の位置に戻してカチッと音がするまで上から押し込んでください。

キートップの取り付けかた

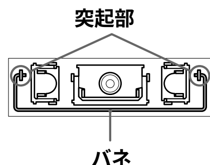
キートップから針金のバネを取りはずして、突起部にひっかけ、キートップの中心を合わせてカチッと音がするまで上から押し込む。

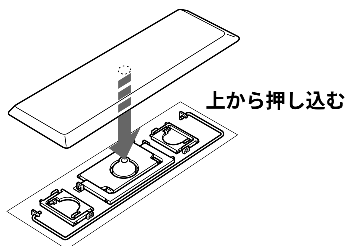
Enterキー





スペースキー





ご注意

- キートップを故意にはずさないでください。故障の原因となります。
- 取り付けるときに無理に力を加えると破損の原因となります。取り扱いには充分ご注意ください。

「Q&A Search」を使ってトラブルを解決する

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp）には「Q&A Search」があり、VAIOに関する質問に対する回答を掲載しています。
「Q&A Search」を使うには、あらかじめインターネットに接続できるよう設定しておいてください。インターネットへの接続については、別冊の「はじめにお読みください」および「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

1 **［スタート］メニューから［お気に入り］にポインタを合わせ、［ソニーお勧めのサイト］を選んでから、［VAIO カスタマーリンク］をクリックする。**
インターネットに接続して、ホームページを見るためのソフトウェアが起動し、VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

2 **［Q&A Search］をクリックする。**
「Q&A検索」が表示されます。

3 **検索したい内容を入力し、［検索］をクリックする。**
「検索結果一覧」が表示されます。

4 **読みたい文面をクリックする。**
回答の内容が表示されます。



VAIOカスタマーリンクのホームページでは、VAIOに関する最新情報や修正プログラムなどがあります。困ったら、まず1度ご覧ください。

その他

ソフトウェアをアンインストールする／再インストールする

ハードディスクの空き容量が足りないために、新しいソフトウェアをインストールできないときは、すでにインストールされているソフトウェアをハードディスクからアンインストール（削除）できます。

ソフトウェアをアンインストールする

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインタを合わせて［コントロール パネル］をクリックする。**

「コントロール パネル」が表示されます。

2 **［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックする。**

「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。



3 **［インストールと削除］タブをクリックする。**

4 **アンインストールしたいソフトウェアをクリックしてから、［追加と削除］をクリックする。**

アンインストーラが起動し、「ファイル削除の確認」が表示されます。

5 **［はい］をクリックする。**

選んだソフトウェアがアンインストールされます。

ソフトウェアを再インストールする

アンインストールしたソフトウェアを再インストールすることもできます。本機に付属しているソフトウェアは、付属のプロダクト リカバリ CD-ROM（以降、リカバリCDと略します）を使って再インストールします。

ソフトウェアによって再インストールのしかたが異なります

- ソニー製のソフトウェアの場合
  詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製以外のソフトウェアの場合
  次ページの「リカバリCDで本機を再セットアップする」をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリCDを使うには、下記のいずれかのドライブが必要です。
  ドライブをお使いになるときは、各ドライブに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。
  – CD-ROMドライブ PCGA-CD51（PCG-Z505Nのみに付属）または PCGA-CD5
  – CD-Rドライブ PCGA-CDR51
  – CD-RWドライブ PCGA-CDRW51
- リカバリCDを使う前に、大切なデータはバックアップをとっておいてください。

リカバリCDで本機を再セットアップする

ここでは、下記の本機専用ドライブと付属のプロダクト リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。お使いになるドライブに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

- CD-ROMドライブ PCGA-CD51（PCG-Z505Nのみに付属）または PCGA-CD5
- CD-Rドライブ PCGA-CDR51
- CD-RWドライブ PCGA-CDRW51

ソニー製DVD-ROMドライブPBD-D50をお使いのときは、リカバリCDを使うために起動用ディスクを作成する必要があります。詳しくは、「起動ディスクを作成する」（159ページ）をご覧ください。

リカバリCDとは

リカバリCDには、出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリCDを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

なお、PCG-Z505Nをお使いの場合は、再セットアップ後に付属のOffice 2000 Personal プレインストールパッケージでMicrosoft® Office 2000 Personal のすべての機能をインストールし直してください。

リカバリCDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクのパーティションサイズを変更する。詳しくは、「パーティションサイズを変更する」（157ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- リカバリCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや、作成したデータを復元することはできません。またWindows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。

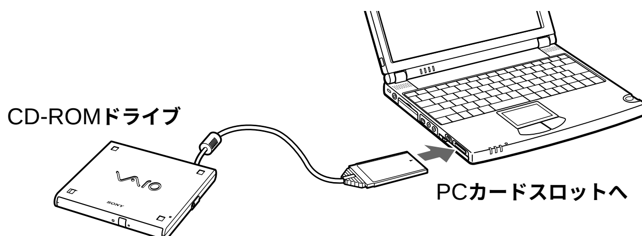
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません 。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう1度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。

準備する

お使いになる本機専用ドライブに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。
ソニー製DVD-ROMドライブPBD-D50をお使いのときは、「起動ディスクを作成する」（159ページ）をご覧ください。

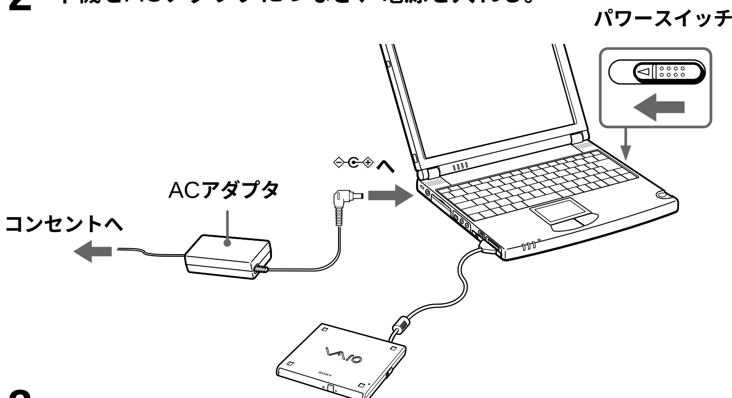
1 ドライブを本機に取り付ける。

詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」（61ページ）をご覧ください。



PCGA-CDR51およびPCGA-CDRW51をお使いのときは、ドライブ底面にある切り替えスイッチを「Recovery」に合わせます。
PCGA-CD51をお使いのときは、ドライブの電源を入れてください。

2 本機をACアダプタにつなぎ、電源を入れる。



3 本機の電源を切る。

その他

再セットアップする

パーティションサイズを変更するときは、次ページの「パーティションサイズを変更する」をご覧ください。

1 **付属の「プロダクト リカバリCD-ROM Vol. 1 of 2」をCD-ROMドライブに入れてから、本機の電源を入れる。**
「プロダクト リカバリCD-ROM リストアユーティリティ」画面が表示されます。

2 **「BIOSの設定値を初期化するためにコンピュータを再起動してもいいですか(Yes/No)?」と表示されたら、Yキーを押してからEnterキーを押す。**
本機が再起動します。

3 **画面の指示に従って操作する。**
操作を続けるかどうか表示されたときは、Yキーを押してからEnterキーを押してください。
画面の指示に従って操作をしていくと、メニュー画面が表示されます。再セットアップの方法を選び、引き続き画面の指示に従って操作してください。再セットアップを中止するときは「5」を選び、Enterキーを押します。

4 **「2枚目のディスクをいれてください。」というメッセージが表示されたら、付属の「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をCD-ROMドライブに入れ、いずれかのキーを押す。**
本機が再起動し、再セットアップの続きが始まります。
再セットアップが終了するとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って本機を再起動してください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（工場出荷時)。付属のリカバリCDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのためデータスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、Windows 98はC:ドライブにインストールされます。
C:ドライブを最適化するには非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけではなく、D:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-Rなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 **前ページの「再セットアップする」の手順1〜3を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「3. パーティションサイズの変更...」を選び、Enterキーを押す。**
パーティションサイズの選択画面が表示されます。
Escキーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、Enterキーを押す。**
サイズ変更を中止する場合は、Nキーを押してからEnterキーを押すと手順2の画面に戻ります。

次のページにつづく

4 画面の指示に従って操作をする。

操作を続けるかどうか表示されたときはYキーを押し、Enterキーを押してください。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。

再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 「2枚目のディスクをいれてください。」というメッセージが表示されたら、付属の「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をCD-ROMドライブに入れ、いずれかのキーを押す。

本機が再起動し、再セットアップの続きが始まります。

再セットアップが終了するとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って本機を再起動してください。

起動ディスクを作成する

ソニー製のDVD-ROMドライブPBD-D50をお使いの場合には、以下の手順で起動用ディスクを作成します。
起動用ディスクを作成しないと、Windowsが起動できなくなった場合に、リカバリCDを使って本機を再セットアップすることができなくなります。正常に動作しているときに起動用ディスクを作成するようおすすめします。

準備する

DVD-ROMドライブを本機で使用できる状態にしておく。

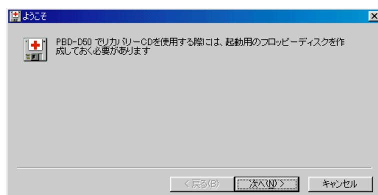
- 本機の電源を入れて、フロッピーディスクドライブを本機に接続しておく。
- DVD-ROMドライブに付属のセットアップディスクを用意する。

ドライバをハードディスクにコピーする

まず始めに、以下の手順に従って、PBD-D50用のドライバをハードディスクにコピーします。

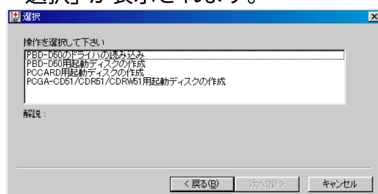
1 ［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインタを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］を選び、［リカバリ用起動ディスク作成ツール］をクリックする。

「ようこそ」が表示されます。



2 ［次へ>］をクリックする。

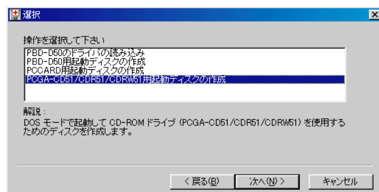
「選択」が表示されます。



その他

次のページにつづく

3 リストの中から使用するドライブのドライバ読み込み操作を選び、[次へ]をクリックする。



4 PBD-D50の接続キットに付属のフロッピーディスクを入れ、[次へ]をクリックする。

本機のハードディスクにドライバがコピーされます。

[完了]をクリックすると、「リカバリ用起動ディスク作成ツール」が終了します。引き続き「起動用ディスクを作成する」の手順を行ってください。

起動用ディスクを作成する

1 前ページの「ドライバをハードディスクにコピーする」の手順1と2を行う。

2 リストの中から、使用するドライブ用の起動ディスク作成操作を選び、[次へ]をクリックする。

3 新しいフロッピーディスクを入れる。

フロッピーディスクに「起動ディスク」と書いたラベルを貼ってから、フロッピーディスクドライブに入れます。

4 [次へ]をクリックする。

フォーマットが始まります。

フォーマットが終わると、引き続いて必要なファイルのコピーが始まります。

5 「終了」の画面が表示されたら、[完了]をクリックする。

これで起動ディスクの作成は終了です。

起動ディスクを確認する

作成した起動ディスクで、DVD-ROMドライブを使用できるかどうか確かめます。

1 **本機の電源を切る。**

2 **DVD-ROMドライブを本機につなぎ、付属の「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol.1 of 2」を入れる。**

3 **フロッピーディスクドライブを本機につなぎ、作成した起動ディスクを入れてから、本機の電源を入れる。**

「BIOSの設定値を初期化するためにコンピュータを再起動してもいいですか（Yes/No）？」と表示されます。

起動ディスクが正しく作成できなかった場合は、「Qドライブにアクセスできませんでした。CD-ROMドライブが正しく接続・認識されていることを確認してください」と表示されます。そのときは、引き続き「正しく認識されなかった場合は」の手順に従って、操作してください。

4 **Nキーを押してからEnterキーを押し、画面の指示に従って、操作する。**

5 **メニュー画面が表示されたら、「5. リカバリCDを終了する...」を選び、Enterキーを押す。**

6 **リカバリCDを終了していいですか（Yes/No)?」と表示されたら、Yキーを押してからEnterキーを押す。**

7 **「CD-ROMを取り出してから何かキーを入力してください」と表示されたら、いずれかのキーを押す。**

本機の電源が切れます。

正しく認識されなかった場合は

「起動ディスクを確認する」の手順3に引き続き、下記の手順を行ってください。

4 リカバリCD-ROMと起動ディスクをそれぞれ取り出す。

5 CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押す。

本機が再起動します。

6 「起動ディスクを作成する」（159ページ）の手順をはじめからやり直す。

その他

本機を再セットアップするときは

起動ディスクを使って本機を再セットアップするときは、次の手順に従って操作してください。

1 **DVD-ROMドライブを本機につなぎ、付属の「プロダクト リカバリCD-ROM Vol. 1 of 2」を入れる。**

2 **フロッピーディスクドライブを本機につなぎ、作成した起動ディスクを入れてから、本機の電源を入れる。**

3 **「再セットアップする」（156ページ）の手順2を実行する。**

4 **「再セットアップする」（156ページ）の手順3を行う。**

本機の再セットアップが始まります。

詳しくは、画面の指示に従って操作してください。

5 **「2枚目のディスクをいれてください。」というメッセージが表示されたら、付属の「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」を入れ、いずれかのキーを押す。**

本機が再起動し、再セットアップの続きが始まります。

再セットアップが終了するとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って本機を再起動してください。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本体に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスでできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。
結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面をぬれたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。
また、手やひじをつくなどして力を加えないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。また、見る角度によってすじ状の色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、液晶ディスプレイの構造によるもので、故障ではありません。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、衝撃や振動、ほこりに弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

次のページにつづく

ハードディスクには衝撃や振動、ほこりからデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 衝撃を与えないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

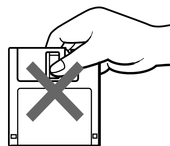
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。アプリケーションプログラムはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

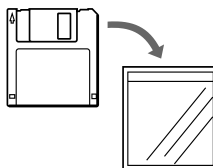
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



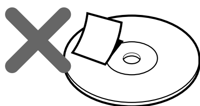
- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



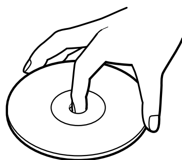
CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないようにして持ちます。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- CD-ROMに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、CD-ROMは必ずケースなどに入れて保管してください。

ACアダプタについて

- 本機には、付属のACアダプタをご使用ください。指定以外のACアダプタを使用すると、故障の原因になることがあります。
- ACアダプタを海外旅行者用の「電子式変圧器」などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。

コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

次のページにつづく

コンピュータウイルスを侵入させないために

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウイルスチェックをする。
- 本機にはコンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。
  使いかたについて詳しくは、「VirusScan」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  また、ウイルスに関するデータファイルを常に更新することをお勧めします。
  インターネット上で、下記のURLから最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書のバックアップをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用などを表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。また、本機に付属のOS以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。

お手入れ

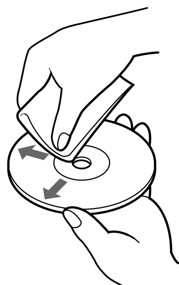
- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

ご注意

- ぬれたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
  化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。

詳しくは、保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピュータの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。当社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、当社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではノートブックコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。
この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名および製造番号は、本体底面または保証書に記載されています。

- **型名：**
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

索引

五十音順

次のページにつづく

アルファベット順

次のページにつづく

この説明書は再生紙を使用しています。

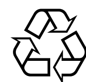


当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび
複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

お願い

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店に関する問い合わせ先：

社団法人電池工業会　TEL:03-3434-0261
ホームページ:http://www.gaj.or.jp

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- “Memory Stick”（“メモリースティック”）および MEMORY STICK™ は、ソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ“i”は商標です。
- Microsoft、Windows、Outlook、Bookshelfは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- Adobe®およびAdobe®Acrobat®ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- K56flexはConexant Systems, Inc.とLucent Technologies社の商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは

VAIOカスタマーリンクへ

● 0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは

VAIOカスタマー専用デスクへ

● 03-3584-6651

VAIOホームページ

VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。

● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ

VAIOの最新サポート情報をご案内します。

● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan